
人間科学部

児童学科

人間科学部 児童学科

人材の養成および 教育研究上の目的

人間科学部では、いのちを大切に、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目的とする。(学則 第4条の2より)

カリキュラムポリシー

教育課程の編成方針

人間科学部では、児童学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 基礎的知識と基本的学習能力を獲得し、人間性の基盤となる豊かな教養を培うために、幅広い科目を設置する。
2. 幼稚園教諭一種、保育士資格取得に必要な科目とともに、知識に偏重しない「子育て支援体験」「生活と自然体験」「異文化理解体験」「児童文化・自己表現体験」など「体験型プログラム」を設け、将来の保育者としての保育力・実践力を高める。
3. 基礎ゼミ、特別研究、卒業研究などの少人数制の科目を設置して、主体的に学び、自主的に研究を進める姿勢を育成し、専門性を高めることを目指す。その中で、柔軟な思考力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力などを培う。
4. 「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を設置して、ESD（持続可能な開発のための教育）など今日的課題に取り組み、国際的な視野からも探究する力を養う。

ディプロマポリシー

学位授与の方針

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（児童学）の学位を与える。

1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。
2. 「体験型プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。
3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。
4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

備考

1. 子どもの最善の利益を考慮し、子どもの健やかな成長を促す人間性、倫理観、責任と自覚を持ち、その能力を常に高めていく意欲を有する人材を育成することが到達目標である。また児童学科では、学生は幼稚園教諭一種、保育士資格の取得を目指している。
2. カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは、日本学術振興会の幼児教育・保育分野および文部科学省、厚生労働省が定める幼稚園教諭、保育士資格の要件を参照基準として準拠している。
3. 系統的な教育が達成されるように、また学生が学びの連続性を確認できるように学修要覧に履修モデルを掲載し、学修の「見える化」に努めている。
4. 児童学科のカリキュラムは、就学前教育・保育や子育て支援をめぐる社会的な要請と連動する形で構築している。子どもや子育てに関わる政策や制度の変化に照準をあて、それらと有機的連携が保たれるように必要に応じてカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを改善できるシステム（カリキュラム改訂委員会等）を有している。

人間科学部 児童学科では、社会動向や多様なニーズに応え、乳幼児期の保育・教育および子育て支援等に適切かつ柔軟に対応できる人材の育成を目標として質の高い保育者養成に努めている。したがって、保育者としての資質、知識、技術を的確に身につけ、高い専門性をもった豊かな人間性と国際的なセンス、優れたコミュニケーション能力を実現するための教育課程の編成を行っている。基本的に児童学の5つの分野である児童福祉、児童発達・心理、児童保健、児童教育・保育、児童文化についての学識を深めるだけでなく、教養や語学能力の向上に努め、さらに本学部独自の体験プログラムを通して実践力を養い、3年次の特別研究や4年次の卒業研究を通して、自らの力で課題発見・解決ができる力を養成する教育課程となっている。このような教育課程と並行して、学生が希望する具体的な進路に対応するために、国家資格である保育士や教育職員免許法に定められた幼稚園教諭1種免許の資格取得希望者に対応したカリキュラムも配置している。また、資格取得を希望せず児童関連の職業や職種、大学院進学を志向する者にも対応できる編成にもなっている。

1. 人間科学部 児童学科設置の趣旨及び社会的要請

近年、社会的に福祉や教育について様々な取り組みが行われている。特に、少子化、核家族化、女性の社会進出に伴い、乳幼児期の保育・教育、子育て支援の分野に対する社会的要請が高くなっている。現在のわが国における保育・教育行政は、社会の大きな変革に伴って、保育所等の整備拡充が特に都市部において重要な課題となっている。その要因の一つとして、男女共同参画社会の概念が一般化し女性の社会参加が自然のこととなり、家庭で担ってきた子育てを、保育所をはじめとする社会的機関に委託する家庭が増加するなどの社会構造の変化があげられる。

平成15年11月の児童福祉法の改正により、保育士は名称独占資格とされ国家資格となった。保育士は「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うこと」という使命が明記され、国家資格化に伴い、その責務の重さが明確化された。一方、幼稚園は平成19年6月の学校教育法の一部改正により、従来の条文の冒頭に「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして」という文言が挿入され、幼稚園が義務教育の前段階の教育機関としての位置づけが明らかとなった。また、学校教育法第1条の学校の定義においても、幼稚園が各学校の冒頭に記載され、幼稚園の教育機関としての存在意義が高い。今後の幼児教育のあり方について、時代の趨勢を鑑みた社会の幼稚園に対する新しい視点からの改革が進められている。また、保護者の要請に対応するため、保育所では延長保育、一時保育など、多様な保育サービスが展開されるようになってきた。同様に、幼稚園でも満3歳児の就園や教育時間終了後の預かり保育の制度が導入されている。さらに、認定こども園の制度が平成18年に施行され、平成26年4月現在、全国で1,359施設であり、年々増加している。平成27年4月からは、平成24年8月に成立した子ども・子育て関連三法に伴い、子ども・子育て支援新制度がスタートし、幼保連携型認定こども園では保育教諭として保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を持ち合わせている保育者が求められている。

近年は保護者が安心して子育てができるよう保護者を支援していくことも保育者の重要な役割となっており、社会の動向や保育・幼児教育の現場の多様なニーズに応えられる保育者養成をめざし、本学部では常に教育課程の見直しをはかっている。また、外国籍の親子も増えており、国際的な広い視点から次世代を見据えた柔軟性の高いカリキュラムが求められるようになり、それらにも適応できる取り組みを積極的に行っている。海外研修や海外の大学との交流は見識を広めるよい機会となっている。

就職に関しては多様なニーズに応え、その支援体制を強化し、毎年就職率100%を目指してきめ細かな指導をし、目標を達成している。卒業生もそれぞれの現場で活躍しており、とくに、在学中に培われたコミュニケーション能力、問題解決力の高さ等に対する社会からの評価は高い。

2. 人材育成の目標

わが国の少子化による影響は経済産業や社会保障の問題に留まらず、国や社会の存続基盤にかかわる重要な問題である。一方で、地球環境問題は、私たち人類の存続基盤にかかわる大きな問題である。このような背景の中で、いのちを大切に、生きる力を育み、平和と環境を堅持し、人類の持続可能な発展をもたらす社会が求められている。そこで、人間科学部では、保育・教育、発達・心理、文化、保健・福祉、環境等について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を備えた、高い専門性を持つ自立した人材を養成する。すなわち、豊かで平和な社会生活の実現とその持続をめざして「未来を担う人間のこころ豊かな成長を科学する」を理念とし、「理論」と「実践」がしっかりと身につけている人材や人間力の育成を第一に考える。

また、学位（児童学）に対しては、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、次に掲げる知識や素質を身に付けた学生に対して授与される。①豊かな人間性に根差した学際的教養と「知」の基盤となる横断的基礎知識及び基礎的・専門的知識や技術を修得し、真理探究のための主体的な学びと自己管理能力、他者への配慮、倫理観、社会的責任等を遂行することができる。②グローバルな視点から物事を考え、「理論」と「実践」を総合的に応用する柔軟な思考力、課題探究能力と問題解決力を修得している。③わかり易く適切に表現できるコミュニケーション力、記述力、プレゼンテーション力等を持ち、積極的に他者と協力してものごとに取り組むことができる。

3. 人間科学部 児童学科での学びの特色

人間科学部 児童学科では社会のニーズに応えた質の高い人材養成を行っている。授業において、アクティブ・ラーニング、PBL（問題解決型授業）などを導入し、その他にもさまざまな直接体験を通した教育を行っている。それは、とくに、保育者を目指す学生にとって、子どもに必要とされる自主性・創造性を育てるために、環境などを通して保育・教育を実践できる力を培うことにつながっている。

本学部では、以下の4つの方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。①基礎的知識と基本的学習能力を獲得し、人間性の基盤となる豊かな教養を培うために、幅広く科目を履修できるよう教養科目の全学共通化を図る。②幼稚園教諭1種免許、保育士資格取得に必要な科目とともに、知識に偏重しない「子育て支援体験」「生活と自然体験」「異文化理解体験」「児童文化・自己表現体験」など「体験型プログラム」を提供し、将来の保育者としての保育力・実践力を高める。③基礎ゼミ、特別研究、卒業研究などの少人数制の科目を通して、主体的に学び、自主的に研究を進める姿勢を育成し、専門性を高めることを目指す。その中で、柔軟な思考力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力などを培う。④「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して、ESD（持続可能な開発のための教育）など今日的課題に取り組み、国際的な視野からも探究する力を養う。

学びの特色としては、他大学での取り組みの先駆となった独創的な以下の4つの体験型プログラムを有している。

（1）生活と自然体験

子どもは五感を駆使して自然とかかわり、いろいろな発見をし、感動する。1年次配当科目の「幼児の生活と自然環境（演習）」において、日常の生活の中で感性を豊かにする体験をした上で、大学近くの自然豊かな等々力溪谷などで自然環境に親しみ、「気づくこと」「感じること」を会得する。また、2年次配当科目である「食農文化と子育て（演習）」では、近隣の畑での農業体験を通して人が協同することの大切さと食育の基本概念を学ぶ。食農文化は、幼児期からの心の教育として大切であり、いのちの大切さ、作物を栽培する楽しさ、収穫の喜び、人と自然の調和等を習得すると同時に、生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培う。

（2）子育て支援体験

学部内施設の子育て支援センター『ぴっぴ』を活用した体験学習は、本学部の大きな魅力となっている。『ぴっぴ』は全国の大学に先駆けて独自に創設された「親子の遊び場」であり、地域社会に開放されている。利用者は1日100名以上であり、親と子の遊び場であるばかりでなく、親同士のコミュニケーションの場ともなっている。このような保育現場を2年生以上の学生は、「子育て支援演習」を通して日常的に研修することができる。2年生から4年生にかけて、親子を観察し、親子とかかわり、保護者支援のニーズが高まる中、力のある地域の子育て支援者になれるよう指導している。なお、この『ぴっぴ』の活動を活用した教育プログラムは、わが国の保育士養成施設や文部科学省、厚生労働省

などの行政からも注目され、全国からの見学者も多く、学部におけるユニークな取り組みとしてだけでなく大学全体の評価を高める要因となっている。

（３）異文化理解体験

社会のグローバル化に対応するため、英語力を強化すると同時に他国語「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「イタリア語」「中国語」「アラビア語」「韓国語」の科目を配当し、受講することができる。また、教養科目の「国際化と異文化理解」、「日本文化の伝承」「演劇文化論」をはじめとしてさまざまなグローバル化に対応した教養科目を配置し、専門科目においても、「比較保育学」などを配置している。平成２２年にニュージーランドのカンタベリー大学と大学間協定を締結、また平成２６年にはオーストラリアのウーロンゴン大学教育学部と大学間協定を締結し、２年次科目の海外研修にて春休み期間に現地での幼児教育研修や学生の交換プログラム、学術的交流などが行われている。その他、毎年、国内外の著名な研究者等を招聘し、学術講演会を開き、異文化理解の一助になっている。さらに、平成２８年度より TAP に参加することとなり、グローバルな人材育成を推進していく。

（４）児童文化、自己表現体験

特別施設「スタジオ・シアター」は国内の児童関連学部でも例を見ない本格的な多目的施設で、そこでは児童演劇、ドラマ、ダンスなどの表現に関する演習授業が行われる。具体的には、「保育の表現技術（身体表現）（言語表現）」「保育内容表現指導法」「幼児の身体表現指導法」「演劇文化論」などの科目である。これらの教育内容は、就学前教育を遂行する保育者としての感性を高め、コミュニケーション能力と自己表現力豊かな人材育成に資するものである。

このように、本学部においては、子どもや保護者とかかわるための基本である豊かなコミュニケーション能力を、さまざまな場面で高める機会を設定している。さらに、「インターンシップ」では、総合的なコミュニケーション能力が要求される。また、直接子どもや保護者とかかわることができる様々な「ボランティア」活動を積極的に奨励し、これら就学前教育を担う保育者の最大の資質の一つであるコミュニケーション能力を涵養すると同時に、理論と実践を兼ね備えた保育者、高い人間力を養成することに尽力している。

2. 人材育成の目標

わが国の少子化による影響は経済産業や社会保障の問題に留まらず、国や社会の存続基盤にかかわる重要な問題である。一方で、地球環境問題は、私たち人類の存続基盤にかかわる大きな問題である。このような背景の中で、いのちを大切に、生きる力を育み、平和と環境を堅持し、人類の持続可能な発展をもたらす社会が求められている。そこで、人間科学部では、保育・教育、発達・心理、文化、保健・福祉、環境等について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を備えた、高い専門性を持つ自立した人材を養成する。すなわち、豊かで平和な社会生活の実現とその持続をめざして「未来を担う人間のこころ豊かな成長を科学する」を理念とし、「理論」と「実践」がしっかりと身につけている人材や人間力の育成を第一に考える。

また、学位（児童学）に対しては、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、次に掲げる知識や素質を身に付けた学生に対して授与される。①豊かな人間性に根差した学際的教養と「知」の基盤となる横断的基礎知識及び基礎的・専門的知識や技術を修得し、真理探究のための主体的な学びと自己管理能力、他者への配慮、倫理観、社会的責任等を遂行することができる。②グローバルな視点から物事を考え、「理論」と「実践」を総合的に応用する柔軟な思考力、課題探究能力と問題解決力を修得している。③わかり易く適切に表現できるコミュニケーション力、記述力、プレゼンテーション力等を持ち、積極的に他者と協力してものごとに取り組むことができる。

3. 人間科学部 児童学科での学びの特色

人間科学部 児童学科で行う保育・教育者の養成の目的は質の高い保育者の養成にほかならない。子どもに必要とされる自主性を育てるために、環境を通して保育・教育を実践できる保育者を養成したいと望んでいる。そのためには保育者養成の過程で、さまざまな直接体験を通した教育がとても重要であると考えます。

そこで、以下の4つの方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。①基礎的知識と基本的学習能力を獲得し、人間性の基盤となる豊かな教養を培うために、幅広く科目を履修できるよう教養科目の全学共通化を図る。②幼稚園教諭1種免許、保育士資格取得に必要な科目とともに、知識に偏重しない「子育て支援体験」「生活と自然体験」「異文化理解体験」「児童文化・自己表現体験」など「体験型プログラム」を提供し、将来の保育者としての保育力・実践力を高める。③基礎ゼミ、特別研究、卒業研究などの少人数制の科目を通して、主体的に学び、自主的に研究を進める姿勢を育成し、専門性を高めることを目指す。その中で、柔軟な思考力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力などを培う。④「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して、ESD（持続可能な開発のための教育）など今日的課題に取り組み、国際的な視野からも探求する力を養う。

学びの特色としては、他大学での取り組みの先駆となった独創的な以下の4つの体験型プログラムを有している。

（1）生活と自然体験

1年次配当科目の「幼児の生活と自然環境（演習）」において、日常の生活の中で感性を豊かにする体験をした上で、五島育英会法人所有の研修施設「ハヶ岳山荘」で8月初旬に2泊3日の宿泊研修を実施する。宿泊を伴う集団生活の体験や自然環境に親しむ体験を通して「生活すること」「気づくこと」「感じること」を会得する。また、2年次配当科目である「食農文化と子育て（演習）」では、近隣の畑での農業体験を通して人が協同することの大切さと食育の基本概念を学ぶ。

（2）子育て支援体験

学部内施設「プレイルーム兼子育て支援室（通称：子育て支援センター『ぴっぴ』）」を活用した体験学習は、本学部の大きな魅力となっている。『ぴっぴ』は全国の大学に先駆けて独自に創設された「親子の遊び場」であり、地域社会に開放されている。利用者は1日100名以上であり、親と子の遊び場であるばかりでなく、親同士のコミュニケーションの場ともなっている。このような保育現場を2年生以上の学生は日常的に研修することができる。なお、この『ぴっぴ』の活動を活用した教育プログラムは、わが国の保育士養成施設や文部科学省、厚生労働省などの行政からも注目され、全国からの見学者も多く、学部におけるユニークな取り組みとしてだけでなく大学全体の評価を高める要因となっている。

（３）異文化理解体験

社会のグローバル化に対応するため、英語力を強化すると同時に他国語「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」等の科目を配当し、受講することができる。また、教養科目の「国際化と異文化理解」、専門科目の「比較保育学」を配置している。また、平成２２年にニュージーランドのカンタベリー大学と大学間協定を締結、また平成２６年にはオーストラリアのウーロンゴン大学教育学部と大学間協定の締結し、２年次科目の海外研修にて春休み期間に現地での幼児教育研修や学生の交換プログラム、学術的交流などが行われている。

（４）児童文化、自己表現体験

特別施設「スタジオ・シアター」は国内の児童関連学部でも例を見ない本格的な多目的施設で、そこでは児童演劇、ドラマ、ダンスなどの表現に関する演習授業が行われる。具体的には、「保育の表現技術（身体表現）（言語表現）」「保育内容表現指導法」「幼児の身体表現指導法」「演劇文化論」などの科目である。これらの教育内容は、就学前教育を遂行する保育者としての感性を高め、コミュニケーション能力と自己表現力豊かな人材育成に資するものである。

以上、本学部・学科ならではの子どもや保護者とかかわるための基本である豊かなコミュニケーション能力を、さまざまな場面で高める機会を設定している。さらに、「インターンシップ」では、総合的なコミュニケーション能力が要求される。また、直接子どもや保護者とかかわることができる様々な「ボランティア」活動を積極的に奨励し、これら就学前教育を担う保育者の最大の資質の一つであるコミュニケーション能力を涵養したい。

区分	科目群	授業科目	必修の別	単位数	資格区分		週 時 間 数								担 当 者 (平成28年度現在)
					保育士	幼児	1年		2年		3年		4年		
							前	後	前	後	前	後	前	後	
001	人文学系	哲学(1) G 講義		2	—	—	2								SC開講
002		哲学(2) G 講義		2	—	—		2							SC開講
003		倫理学(1) 講義		2	—	—	2								SC開講
004		倫理学(2) 講義		2	—	—		2							SC開講
005		倫理学 講義		2	—	—		2							YC開講
006		文化人類学 講義		2	—	—		2							SC開講
007		視覚芸術史(1) G 講義		2	—	—	2								SC開講
008		視覚芸術史(2) G 講義		2	—	—		2							SC開講
009		デザイン概論(1) G 講義		2	—	—			2						SC開講
010		デザイン概論(2) G 講義		2	—	—				2					SC開講
011		文学 G 講義		2	—	—	2								SC開講
012		日本文学 G 講義		2	—	—			2						木内英実
013		西洋史(1) G 講義		2	—	—	2								SC開講
014		西洋史(2) G 講義		2	—	—		2							SC開講
015		民俗学 G 講義		2	—	—		2							SC開講
016		比較文化史 G 講義		2	—	—	2	(2)							SC開講
017		宗教学 G 講義		2	—	—	2								SC開講
018	社会科学系	社会学(1) 講義		2	—	—	2								木村豊
019		社会学(2) 講義		2	—	—		2							木村豊
020		社会学入門 講義		2	—	—	2								YC開講
021		経済学(1) 講義		2	—	—	2								伊藤潤平
022		経済学(2) 講義		2	—	—		2							伊藤潤平
023		日本経済論 G 講義		2	—	—					2				YC開講
024		政治学(1) 講義		2	—	—	2								SC開講
025		政治学(2) 講義		2	—	—		2							SC開講
026		日本の政治 G 講義		2	—	—			2						YC開講
027		国際関係論(1) G 講義		2	—	—	2								中山裕美
028		国際関係論(2) G 講義		2	—	—		2							中山裕美
029		日本国憲法 講義		2	—	○		2							天野聖悦
030		法学 講義		2	—	—	2								SC開講
031		民法 講義		2	—	—		2							SC開講
032		行政史 G 講義		2	—	—	2								SC開講
033		西洋経済史 G 講義		2	—	—		2							SC開講
034		人文地理学 講義		2	—	—	2								SC開講
035		現代中国論 G 講義		2	—	—		2							SC開講
036	人間科学系	教育学(1) 講義		2	—	—	2								SC開講
037		教育学(2) 講義		2	—	—		2							SC開講
038		スポーツ・健康論 講義		2	—	—	2	(2)							SC/YC開講
039		心理と生理 講義		2	—	—	2								SC開講
040		文化とパーソナリティ 講義		2	—	—		2							SC開講
041		学習と動機づけ 講義		2	—	—	2								SC開講
042		発達と教育 講義		2	—	—		2							SC開講
043		心理学概論 講義		2	—	—	2								森山徹
044		心理学入門 講義		2	—	—	2								YC開講
045		社会とジェンダー 講義		2	—	—		2							YC開講
046		国際化と異文化理解 G 講義		2	—	—					2				山中美子
047		日本文化の伝承 G 講義		2	—	—		2							榎本宗白
048		演劇文化論 G 講義		2	—	—					2				小林由利子
049		地域福祉論 講義		2	—	—				2					倉田新
050		現代の疾病と食生活 講義		2	—	—				2					早坂信哉
051		論理学(1) 講義		2	—	—	2								SC開講
052		論理学(2) 講義		2	—	—		2							SC開講

G：国際化（グローバル化）に対応した教養科目

「教養科目」において、「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し、
国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「G」を付している。

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し、100 分を 2 時間（1 コマ）としてカウントする。

単位数の計算もこの原則に基づいて行う（「1-2. 単位数」の項参照）。

区分	科目群	授業科目	必修の別	単位数	資格区分		週 時 間 数								担 当 者 (平成 2 8 年度現在)		
					保育士	幼児	1 年		2 年		3 年		4 年				
							前	後	前	後	前	後	前	後			
教養科目	自然・情報科学系	生活とメディア	講義		2		—			2						松浦李恵	053
		公衆衛生学	講義		2		—					2				早坂信哉	054
		現代の物理	講義		2	—	—			2						Y C 開講	055
		科学技術と社会	講義		2	—	—				2					Y C 開講	056
		情報処理演習(1)	演習	○	1	○	○	2								須藤智亜紀	057
		情報処理演習(2)	演習	○	1	○	○		2							須藤智亜紀	058
		情報処理演習(3)	演習		1		—			2						須藤智亜紀	059
		情報処理演習(4)	演習		1		—				2					須藤智亜紀	060
	その他	PBL による産学協働演習	演習		2	—	—	2								S C 開講	061
		ボランティア(1)	実習		1	—	—									早坂信哉	062
		ボランティア(2)	実習		1	—	—									早坂信哉	063
		教養ゼミナール(1)	演習		2	—	—	2	(2)	教養ゼミナールと教養特別講義は、各 4 単位まで「教養科目」区分の卒業要件として算入できる。それぞれ 4 単位を超える同科目の単位は、卒業要件に算入できない。科目詳細は、シラバスを参照すること。					S C 開講	064	
		教養ゼミナール(2)	演習		2	—	—	2	(2)						S C 開講	065	
		教養特別講義(1)	講義		2	—	—	2	(2)						別指定	066	
		教養特別講義(2)	講義		2	—	—	2	(2)						別指定	067	
外国語科目	英語科目	Study Skills	演習	○	1		—	2								杉本裕代, 植野貴志子	068
		Communication Skills(1)	演習	○	1	○	○	2								鴨下恵子, ブルースミラー	069
		Communication Skills(2)	演習	○	1	○	○		2							鴨下恵子, ブルースミラー	070
		Reading and Writing(1)	演習	○	1		—		2							杉本裕代, 植野貴志子	071
		Reading and Writing(2)	演習	○	1		—			2						浅川友幸, 白須洋子, 倉持和歌子	072
		TOEIC Preparation	演習	○	1		—				2					浅川友幸, 白須洋子, 倉持和歌子	073
		英語でライティング&プレゼンテーション	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	074
		アカデミック・イングリッシュ・セミナー	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	075
		Advanced TOEIC	演習		2	—	—	2	(2)							出野由紀子	076
		英語読解力養成	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	077
		海外・特別選抜セミナー	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	078
		英語文法トレーニング	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	079
		英語発音・聴解トレーニング	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	080
		キャリア・イングリッシュ	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	081
		サバイバル・イングリッシュ	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	082
		ニュースを英語で読む	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	083
		スポーツで学ぶ英語	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	084
		映画で学ぶ英語	演習		2	—	—	2	(2)							ローマングレコ	085
		文学で学ぶ英語	演習		2	—	—	2	(2)							杉本裕代	086
		音楽で学ぶ英語	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	087
	Cultural Comparison	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	088	
	Modern Society	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	089	
	科学技術英語	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	090	
	外国語特別講義(1)	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	091	
	外国語特別講義(2)	演習		2	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	092	
	英語以外の外国語科目	ドイツ語(1)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	093
		ドイツ語(2)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	094
		フランス語(1)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	095
		フランス語(2)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	096
		スペイン語(1)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	097
		スペイン語(2)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	098
		イタリア語(1)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	099
		イタリア語(2)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	100
		中国語(1)	演習		1	—	—	2	(2)							中川友	101
		中国語(2)	演習		1	—	—	2	(2)							中川友	102
		アラビア語(1)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	103
		アラビア語(2)	演習		1	—	—	2	(2)							S C / Y C 開講	104
		韓国語(1)	演習		1	—	—	2	(2)							長渡陽一	105
		韓国語(2)	演習		1	—	—	2	(2)							長渡陽一	106

H28 人間科学部 児童学科 教育課程表 2

○印必修 △印選択必修

区 科 目 分 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	資格区分		週 時 間 数								担 当 者 (平成28年度現在)	
				保育 士	幼 免	1 年		2 年		3 年		4 年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
107	体育 科目	人間と健康	講義	○	2	○	—	2							高橋うらら
108		健康と運動(1)	実技		1	○	○	2							長堂益丈
109		健康と運動(2)	実技		1	○	○		2						高橋うらら
110	専門 科目	保育原理	講義	○	2	○	—	2							倉田新
111		教育原理	講義	○	2	○	○			2					増渕幸男
112		児童家庭福祉(1)	講義	○	2	○	—	2							伊藤陽一
113		社会福祉	講義		2	○	—				2				伊藤陽一
114		相談援助	演習		2	○	—			2					浦野耕司
115		社会的養護(1)	講義		2	○	—			2					伊藤陽一
116		保育者論	講義		2	○	○					2			倉田新
117		発達心理学(1)	講義	○	2	○	○		2						井戸ゆかり
118		教育心理学	演習		2	○	○				2				紺野道子
119		子どもの保健(1)	講義		2	○	—			2					早坂信哉
120		子どもの保健(2)	講義		2	○	—				2				早坂信哉
121		子どもの保健(3)	演習		1	○	—				2				玉内裕美
122		子どもの食と栄養	演習		2	○	—		2						早坂信哉
123		家庭支援論	講義		2	○	—			2					小川清美
124		カリキュラム論	講義		2	○	○					2			根津明子
125		保育内容総論	演習		2	○	○			2					内藤知美
126		保育内容健康指導法	演習		2	○	○					2			高橋うらら
127		保育内容人間関係指導法	演習		2	○	○			2					石井智子
128		保育内容環境指導法	演習		2	○	○					2			根津明子
129		保育内容言葉指導法	演習		2	○	○				2				内藤知美
130		保育内容表現指導法	演習		2	○	○				2				小林由利子
131		乳児保育(1)	演習		2	○	—		2						小川清美
132		障害児保育	演習		2	○	—				2				園田巖
133		社会的養護内容	演習		2	○	—					2			園田巖
134		保育相談支援	演習		2	○	—					2			園田巖
135		保育の表現技術(音楽表現)(1)	演習		1	○	○	2							岩田, 安藤, 上野, 小寺, 江口
136		保育の表現技術(音楽表現)(2)	演習		1	○	○		2						岩田, 安藤, 上野, 小寺, 江口
137		保育の表現技術(造形表現)(1)	演習		1	○	○	2							山藤仁
138		保育の表現技術(造形表現)(2)	演習		1	○	○		2						山藤仁
139		保育の表現技術(身体表現)(1)	演習		2	○	○			2					高橋うらら
140		保育の表現技術(身体表現)(2)	演習		2	○	—				2				高橋うらら
141		保育の表現技術(言語表現)(1)	演習		2	○	—	2							小林由利子
142		保育の表現技術(言語表現)(2)	演習		2	○	—					2			小林由利子
143		保育実習(1)(保育所・施設)	実習		4	○	—					4			倉田新, 伊藤陽一, 園田巖
144		保育実習指導(1)(保育所)	演習		1	○	—					2			倉田新, 園田巖
145		保育実習指導(1)(施設)	演習		1	○	—					2			伊藤陽一, 園田巖
146	保育実習(2)(保育所)	実習		2	△	—						2		倉田新	
147	保育実習指導(2)(保育所)	演習		1	△	—						2		倉田新	
148	保育実習(3)(施設)	実習		2	△	—						2		伊藤陽一	
149	保育実習指導(3)(施設)	演習		1	△	—						2		伊藤陽一	
150	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習		2	○	○							2	小川, 根津, 紺野, 園田	

※保育実習の履修組合せ

	実 習	実習準備授業科目	開講時期・実習時期
○必修として「保育所」「施設」の 両方の実習を行う	保育実習(1)(保育所・施設)	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)	3年前期
△選択必修として「保育所」または「施設」の どちらかの実習を行う。	保育実習(2)(保育所)	保育実習指導(2)(保育所)	4年前期
	保育実習(3)(施設)	保育実習指導(3)(施設)	

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し、100分を2時間（1コマ）としてカウントする。

単位数の計算もこの原則に基づいて行う（「1-2.単位数」の項参照）。

区 科 目 分 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	資格区分		週 時 間 数								担 当 者 (平成28年度現在)	
				保育士	幼 免	1 年		2 年		3 年		4 年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	社会的養護(2)	講義	2	○印 必修 を含 め 15 単 位 以 上 修 得 ／ 「二」 科目 は 対 象 外	—						2			伊藤陽一	151
	児童家庭福祉(2)	講義	2		—		2							伊藤陽一	152
	発達心理学(2)	演習	2		○			2						紺野道子	153
	臨床心理学	演習	2		—							2		紺野道子	154
	乳児保育(2)	演習	2		—					2				小川清美	155
	保育の表現技術(音楽表現)(3)	演習	1					2						岩田,成岡,平岩,上野,小寺,須藤	156
	保育の表現技術(音楽表現)(4)	演習	1						2					岩田,成岡,平岩,上野,小寺,須藤	157
	保育の表現技術(造形表現)(3)	演習	2					2						山藤仁	158
	児童文化(1)	演習	2		—	2								河野優子	159
	児童文化(2)	演習	2		—					2				内藤知美	160
	子どもと昔話	講義	2		—						2			木内英実	161
	地域と伝承文化	講義	2		—						2			木内英実	162
	フィールドワーク研究	演習	2		—							2		岩田遵子	163
	手話	演習	2		—	2								新井孝昭	164
	比較保育学	演習	2		—								2	内藤知美	165
	児童館論	講義	2		—								2	倉田新	166
	幼児の生活と遊び	演習	2	—	○	2								小川清美	167
	児童文学	演習	2	—	○				2					木内英実	168
	子どもと数	演習	2	—	○				2					新井孝昭	169
	教育学概論	講義	2	—			2							増渕幸男	170
	幼児の造形表現指導法	演習	2	—	△	※ △印 いずれか1科 目を選択必修					2			山藤仁	171
	幼児の身体表現指導法	演習	2	—	△						2			高橋うらら	172
	幼児の音楽表現指導法	演習	2	—	△						2			岩田遵子	173
	幼児教育方法論	講義	2	—	○						2			石井智子	174
	幼児理解の理論と方法	演習	2	—	○						2			井戸ゆかり, 亀田佐知子	175
	教育相談	講義	2	—	○						2			紺野道子	176
	幼稚園教育実習(1)	実習	2	—	○					2				石井智子, 木内英実	177
	幼稚園教育実習指導(1)	演習	1	—	○					2				石井智子, 木内英実, 亀田佐知子	178
	幼稚園教育実習(2)	実習	2	—	○							2		石井智子, 木内英実	179
	幼稚園教育実習指導(2)	演習	1	—	○							2		石井智子, 木内英実, 亀田佐知子	180
	キャリアデザイン入門	演習	2	—	—					2				井戸ゆかり	181
	キャリアデザイン(1)	演習	1	—	—							1		倉田新	182
	キャリアデザイン(2)	演習	1	—	—								1	倉田新	183
	インターンシップ(1)	実習	1	—	—									倉田新	184
	インターンシップ(2)	実習	1	—	—									倉田新	185
	幼児の生活と自然環境	実習	2	○	—	2								根津明子, 北川由紀子	186
海外研修	演習	2	—	—						2			小林由利子	187	
子育て支援演習	演習	2	○	—				1	1	1	1	1	1	小川清美, 内藤知美	188
食農文化と子育て(1)	演習	2	○	—					2					野村明洋	189
食農文化と子育て(2)	演習	2		—						2				倉田新	190
人間科学概論	講義		2		—	2								早坂信哉	191
児童学入門	講義	○	2		—	2								全教員	192
基礎ゼミ	演習	○	2	○	—	2								全教員	193
特別研究	演習	○	4	○	—						2	2		全教員	194
卒業研究	演習	○	6	○	—									全教員	195

「—」は、資格取得要件としては対象外となる科目。
資格取得の詳細は、別途資格取得のための要綱を参照すること。

注 卒業必要単位数は下表のとおりとする。

合 計	1 2 4 単位	以下を含むこと
教養科目		
外国語科目	2 0 単位	右記を含むこと ○必修 1 0 単位
体育科目		
専門科目	9 0 単位	右記を含むこと ○必修 2 2 単位

履修要綱

履修要綱は本学学則第5章及び第8章に基づいて定められたものである。従って、学生は授業を受けるにあたっては、特にこれを熟読しなければならないものである。

1. 単位について

1. 単位制度

本学の教育課程は単位制度に基づいて編成されており、学修の基本でもあるので、単位制度の本質を十分に理解する必要がある。単位は履修した科目の学力が一定レベルに達したときに与えられるもので、そのレベルに達するためには教室内で授業を受けるだけでは不十分であり、予習、復習、宿題などの自学自習を必要とする。

大学の授業は講義、演習、実験、実習及び実技等の方法で行われ、各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合せて45時間として、学則第18条の基準に従って計算されるが、本学では講義については、2時間の授業に対して4時間の自学自習を行わせることを基準にしている。なお、本学人間科学部を卒業するためには4年以上在学して総計124単位以上を修得しなければならない。

2. 単位数

授業の方法によって授業時間に対する自学自習の必要時間が異なるので、週1時限(2時間)の授業に対して与えられる単位数は次のとおりである。(学則第18条参照)

(1) 講義・演習

2時間の授業、4時間の自学自習、週1回半期15週では、

$$(2 + 4) \times 15 = 90 \text{ 時間} \quad 90 \div 45 = 2 \text{ 単位}$$

通年30週の場合は4単位

(2) 実験・実習・製図・実技

2時間の授業、1時間の自学自習、週1回半期15週では、

$$(2 + 1) \times 15 = 45 \text{ 時間} \quad 45 \div 45 = 1 \text{ 単位}$$

ただし、授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については、その程度に応じて単位数を増加してある。

また、学則第18条の2に基づき、各授業科目の授業は、10週または15週にわたる期間とするものの、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげる場合、この期間を変更する場合がある。科目によってはクォーター開講(前学期・後学期をさらに分割した期間で開講)する場合があるが、詳細は授業時間表で確認すること。

3. 単位の授与

各授業科目を履修した者に対して、試験(中間試験その他の評価を含む)によりその成果を判定した上で単位を与える。この場合の履修とは単位制度に基づくものであって、所定の単位を修得するためには必要な時間数の授業を受けていなければならないことは勿論、定められた時間数の自学自習が行われていなければならない。

なお、履修したが合格点に達しないため単位を与えられなかった科目のうち、単位を修得しておかなければならない科目は、次年度以降に低学年の授業時間表に従って再履修しなければならない。

2. 授業科目について

1. 科目の区分

授業科目はその内容により、「教養科目」「外国語科目」「体育科目」「専門科目」の各区分に分ける。それぞれに属する各授業科目については“教育課程表”に記載されているので同表を参照すること。

また、「保育士」「幼稚園教諭1種免許状」資格取得のためには、別途、当該資格を取得するための履修要綱を参照し、これに基づき必要な単位を修得すること。

2. 科目の種類

授業科目は必修科目、選択必修科目、及び選択科目に分ける。その性格は次のとおりである。

- (1) 必修科目……………必ず履修しなければならない科目（教育課程表中の○印）
- (2) 選択必修科目……学科で指定された科目の中から選択して履修しなければならない科目（教育課程表中の△印）
- (3) 選択科目……………自由に選択して履修できる科目（教育課程表中の無印）

なお、科目の選択は各自の履修上慎重な配慮を要するものなので、選択にあたっては必ず3－3の履修方針の作成の項を参照すること。

3. 履修について

1. 卒業の要件

本学を卒業するためには4年以上在学して、次の表に従ってそれぞれの区分の単位を修得する必要がある。なお、この表は各自の履修の基準になるので学年始毎に参照すること。

区 分	卒 業 要 件
教養科目	20単位
外国語科目	
体育科目	
専門科目	90単位
小 計	110単位
自由選択※	14単位
合 計	124単位以上

必修科目（○印）10単位を含む。

必修科目（○印）22単位を含む。

※自由選択として、各区分の卒業要件を超える分を合算して14単位以上修得しなければならない。

2. 履修科目区分

教養科目 「教養科目」区分は、「外国語科目」「体育科目」区分とあわせて、20単位以上を修得しなければならない。

「保育士」資格取得のためには「情報処理演習(1)」「同(2)」が必修であり、また、「幼稚園教諭1種免許状」取得のためには「情報処理演習(1)」「同(2)」「日本国憲法」が必修となるので留意すること。

外国語科目 「外国語科目」区分は、「教養科目」「体育科目」区分とあわせて、20単位以上を修得しなければならない。

「保育士」資格および「幼稚園教諭1種免許状」取得のためには「Communication Skills(1)」「同(2)」が必修となるので留意すること。

体育科目 「体育科目」区分は、「教養科目」「外国語科目」区分とあわせて、20単位以上を修得しなければならない。「保育士」資格取得のためには「人間と健康」「健康と運動(1)」「同(2)」が必修であり、また、「幼稚園教諭1種免許状」取得のためには「健康と運動(1)」「同(2)」が必修となるので留意すること。

専門科目 「専門科目」区分における、必要最少単位数は90単位である。必修科目・選択必修科目等について留意すること。また、「保育士」資格および「幼稚園教諭1種免許状」取得のためには別表に従うこと。

自由選択 上記4区分の必要最少単位数の小計は110単位となるが、卒業要件を充たすには、各区分の必要最少単位数を超えた分を合算して14単位以上取得しなければならない、この14単位分を「自由選択」とする。これにより、卒業要件は合計124単位となる。

3. 履修方針の作成

- (1) 学期の始めに当たっては、「教授要目」を熟読するとともにその年度の教育課程を充分理解した上で、各自一年間の履修方針を定めること。
- (2) 当該年度に組まれている授業時間表に基づいて、必修科目、選択必修科目、選択科目の順に、履修方針に基づいて選択し、履修申告をしなければならない。
- (3) 自学自習に多くの時間を要する単位制度のもとでは、授業時間表に組まれている選択科目の全部について履修することはむずかしいので、科目選択に当たっては、クラス担任教員等の助言を受けて、適正に選択することが必要である。
- (4) 所属学年に組まれている授業科目はその学年で修得するよう努力すべきである。次の年度で再履修しようとしても授業時間や試験時間が重複して履修できない場合があるからである。

4. 履修申告の流れ

履修申告とは、その学期に履修する科目を登録することである。登録は WEB 上から指示された日までに必ず行うことが必要である。この手続を経ない科目は、受講の上、試験に合格しても単位は与えられない。以下は、履修申告に関する各学期の流れである。

(1) 履修科目の選択・調整期間

学期開始から履修登録までに 1～2 週間の期間がある。この期間は、前述 3 の履修方針にあわせて「学修要覧」「教授要目」等を参考にしながら、実際に授業に出席することで、自分の履修科目を選択し確定するためのものである。なお、この期間に履修者を調整する科目もある。履修登録前に履修者を確定する場合もあるので、1 週目の授業は特に重要である。

(2) 履修科目の登録

履修登録は WEB 上から行う。なお、登録後の履修科目の追加はできない。また、本人の不備による履修登録の誤りは、すべて自己の責任となるので、特に慎重な注意が必要である。

他学部や他学科、他大学などの科目を履修する場合には、WEB 上での登録ではなく、別途所定用紙（特別履修科目履修申告書など）により提出する。科目によっては担当者の許可印を必要とする場合もある。

(3) 履修登録の確認

履修登録の 1～2 週間後、履修科目が正しく登録できているか否かを確認する機会を設けている。この機会では登録した科目の履修辞退に応じることができる。

(4) クォーター開講科目の履修登録

科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合があるが、履修登録の手続きについては「前学期」「後学期」として学期ごとに行う必要があるので注意すること。

5. 習熟度別クラス編成・履修免除

英語科目においては、入学後オリエンテーション期間内で実施する基礎学力調査の結果により、習熟度別に編成したクラスを指定する場合や、履修を免除する場合がある。詳細は、別途配布される「授業時間表」の注意事項を参照すること。

6. 履修登録単位数の制限

(1) 履修登録単位数の上限

1 学期あたりの履修登録単位数は 24 単位を上限とする。

なお、通年科目については、単位数に 1/2 を乗じた値を 1 学期分の単位数とする。

(2) 履修登録単位数の上限対象外とする科目

「保育士」資格および「幼稚園教諭1種免許状」取得のために必要な科目（教育課程表の「資格区分」において「○」「△」印の科目）については、履修登録単位数の制限内に含まない。

また、「集中講義系科目」「学外実習系科目」「教職に関する科目」「卒業要件非加算科目」についても、履修登録単位数の制限内に含まない。

(3) 成績優秀者等への履修登録単位数の上限緩和

人間科学部では、前記(2)により、(1)の原則を超えて履修登録できるケースが多くなることから、成績優秀者等による上限緩和対応はない。

7. 履修申告の注意

(1) 「履修登録」

「履修登録」は、WEB上から行う。他学部、他大学などの科目を履修する場合は、WEB上での登録ではなく別途所定用紙による登録が必要である。

(2) “再履修”とは

過去に不合格になった科目を、再度履修することを“再履修”として扱う。

(3) 合格科目の再履修はできない

既に合格（単位取得）した科目を再度履修することはできない。（＝一度履修して合格した科目の成績評価は変更できない）

(4) 高学年配当科目の履修はできない

自己の学年よりも高学年に配当されている科目は履修できない。

(5) 履修者指定のある科目に注意

科目によっては、所属学科・クラス・班などによる履修者指定をしている場合がある。また、授業開始前の希望者事前審査や、授業開始時の出席により、受講者指定や人数制限をする科目もある。

(6) 2年次以降の履修申告の際には、さらに、次のことに注意すること。

- ・履修する科目は初めての履修、再履修を問わず、すべて申告すること。
- ・低学年の必修科目と所属学年に配当されている必修科目の授業時間が重複している場合は、低学年の科目を優先して履修すること。

4. 卒業と同時に「保育士」資格・「幼稚園教諭1種免許状」を取得することについて

人間科学部児童学科では、卒業と同時に「保育士」「幼稚園教諭1種免許状」を取得することができるが、このためには、それぞれの要件を同時に満たす必要がある。各参照ページを十分に理解し、計画的に単位を修得すること。

1. 「卒業」するための要件

(1) 参照ページ

P. 46～49 —— 教育課程表

P. 50～58 —— 履修要綱

(2) 注意事項

「保育士」や「幼稚園教諭1種免許状」の取得には、卒業に必要な単位を修得することが前提となる。

卒業するための要件は何よりも重要なので、「教育課程表」「履修要綱」に基づき、単位を修得すること。

2. 「保育士」資格を取得するための要件

(1) 参照ページ

P. 65～68 —— 「保育士」資格の取得について

(2) 注意事項

人間科学部児童学科で担当している全 195 科目は、「児童福祉法施行規則に基づく履修科目」に該当する。これらを“告示による教科目（系列）”ごとに“当該養成施設における教科の開設状況”として一覧にしたのが、P. 66～68 の表である。

「保育士」資格を取得するためには、卒業するための要件と同時に、この表に基づき、単位を修得すること。

3. 「幼稚園教諭 1 種免許状」を取得するための要件

(1) 参照ページ

P. 69～71 —— 「幼稚園教諭 1 種免許状」の取得について

(2) 注意事項

人間科学部児童学科で担当している全 195 科目の中で、幼稚園教諭免許状の取得に関連した科目は 43 科目で、これらを“免許法施行規則に定める科目区分等”ごとに“対応する本学の開設授業科目”として一覧にしたのが、P. 70～71 の表である。

「幼稚園教諭 1 種免許状」を取得するためには、卒業するための要件と同時に、この表に基づき、単位を修得すること。

5. その他の資格について

上述の資格、免許状の他に、「教育学概論」「公衆衛生学」「保育原理」の 3 科目の単位を修得することによって、「社会福祉主事任用資格」（各地方自治体の福祉事務所等で働く者に要求される任用資格）を取得することが可能である。

6. 授業時間について

各時限の授業時間は次のとおりである。

時 限	1	2	3	4	5
時 間	9:00～10:40	10:50～12:30	13:20～15:00	15:10～16:50	17:00～18:40

7. 公欠について

次の事由により授業を欠席する場合は、公欠として扱う。いずれも、書類を必要とするので、担当事務局に連絡の上、所定の用紙（事務局備え付け）を提出すること。

(1) 学校感染症

学校保健安全法に定める第 1・2・3 種感染症（インフルエンザ、風疹、百日咳、その他）と診断された場合、原則として 7 日以内の欠席を認める。ただし、添付書類として医師の診断書を必要とする。

(2) 忌引

3 親等内の血族、および配偶者と 1 親等内の姻族を忌引扱いとする。いずれも死亡日より起算し、日曜、祝日も含むものとする。また、これにともなう旅行日数も忌引日数に加算する。

- ・ 父母、配偶者およびその父母 7 日
- ・ 祖父母、兄弟姉妹 5 日
- ・ 曾祖父母、おじ、おば、甥、姪 3 日

(3) その他

上記に該当しないものについては、担当事務局に相談のこと。

8. 休講について

学校行事や担当教員の都合などにより授業を休講とする場合がある。その場合は事前に掲示板を通して連絡する。

なお、休講の掲示やその他特段に指示がなく、授業開始時間から30分を過ぎても授業が行われない場合は、担当事務局に問い合わせること。

9. ストライキ等により交通機関が運行停止した場合及び台風による気象警報発表時の授業措置について**1. 交通機関がストライキ等により運行停止した場合**

(1) 東急電鉄（大井町線）がスト等により運行を停止した場合

次の段階によって授業措置が異なる。

1	午前6時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前9時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時までにスト等による運行停止が解除されない場合	→	全日休講とする

(2) 東急電鉄（大井町線）がスト等により運行を停止しない場合

J R 東日本の電車その他が、スト等により運行を停止しても、授業は平常どおり行う。

2. 台風による暴風警報が発表された場合

東京地方（23区西部、23区東部）及び神奈川県東部に暴風警報が発表されている場合、次の段階によって授業措置が異なる。

1	午前6時までに暴風警報が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前6時から午前9時までの間に暴風警報が解除された場合	→	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時以降に暴風警報が解除された場合	→	全日休講とする

なお、暴風警報が発表されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することが想定される。状況に応じて休講の措置をとることもあるので、大学発表の情報を必ず確認すること。

また、授業開始以後に暴風警報が発表された場合は、学内放送等で授業措置の情報を発信する。

3. その他

その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合がある。

そのような場合、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自で確認すること。

10. 試験について

1. 試験の内容

科目試験

定期試験は、全学一斉に期間を指定して行う試験で、前期末の「前期末試験」と、学年末の「学年末試験」がある。また、クォーター開講科目の場合は、クォーター終了時点で「前期前半末試験」「後期前半末試験」という定期試験を設定している。

なお、担当教員により、これらの指定期間とは別に、授業期間中にこれらの試験に準ずる試験を行う場合がある他、中間試験その他を行うことがある。また、レポート、論文等をもって試験に替える場合もある。

受験に際しては次の事項に留意すること。

- (1) 試験科目、試験の日時および場所は予め掲示する（その際に受験についての注意事項を併せて掲示する）。
- (2) 次の何れかに該当する者は試験を受けることはできない。たとえ受験しても無効とする。
 - a. 科目の履修申告をしていない者
 - b. 学生証を所持しない者
 - c. 試験開始後20分以上遅刻した者
- (3) 受験の際は学生証を必ず机の上に置かなければならない。
- (4) 試験開始後30分以内の退場は許可しない。
- (5) 病気・負傷、大学に向かう途中の事故又はやむを得ない正当な事由により受験できなかった場合は、欠席届に診断書又は証明するものを添えて担当事務局に提出しなければならない。

2. 定期試験の実施について

人間科学部児童学科の定期試験は、原則として平常の授業時間内で実施する。一部の科目においては、定期試験期間を設定し、次の通り各時限60分を原則とした試験時間を設定している。

※参考：他学部 of 定期試験

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9:00～10:00	10:20～11:20	11:40～12:40	13:40～14:40	15:00～16:00	16:20～17:20	17:40～18:40

3. 試験の際に不正を行った者の取り扱い

本学部学生が、試験（単位互換により、本学部以外での受験を含む）において不正行為を行った場合、「学則」および「学生の懲戒に関する規程」に従って処分の手続きを行い、「当該学期に実施する全ての科目試験の評価を不可（0点）にする」とともに、「10日以上停学または退学」とする。

- (1) 試験には、大学が当該年度の学年暦で定めた定期試験期間中に行う試験の他、担当教員が授業期間中に各学期末試験または学年末試験として行う試験や、クォーター開講科目で学期途中に実施する試験も対象とし、これらのすべてを「当該学期に実施する全ての科目試験」として取り扱う。
- (2) 停学の期間は在学年数に算入する。
- (3) 処分の内容は決定後公示する。
- (4) 停学の執行開始は、処分を決定した日の翌日からとする。

注1：下記のような場合は不正行為と断定する。

- (a) 代人に受験させた場合
- (b) 他人のために答案、メモ等を書いたり、他人に答案、メモ等を書いてもらったりしている場合
- (c) 持ち込みを許可されていない教科書、参考書、ノート、メモ等を見たとき認められる場合
- (d) 他人の答案を見たとき認められる場合
- (e) 他人に自己の答案を見せたと認められる場合
- (f) 言語、動作をもって互いに連絡している場合
- (g) 教科書、参考書、ノート等を参照してよい場合に、これらを互いに貸借している場合
- (h) その他、試験監督者および出題者が不正と判断する行為（例えばメモ、ノートを机の上においている場合や所持している場合等）を行った場合

注2：不正行為は試験場で指摘された場合に限らず，採点の際に発見された場合も同様の扱いを受ける。

注3：処分を受けると当該試験期間に実施される科目試験の全ての科目が不合格となるので，ほぼ確実に1年以上の卒業延期となる。

11. 成績について

1. 成績の発表

- (1) 科目試験の結果は，8月下旬（クォーター開講を含む前期配当科目）と3月下旬（クォーター開講を含む後期配当科目および通年配当科目）の2回発表する。
- (2) 成績は発表と同時に効力を発生するものとする。
- (3) 卒業の要件を充たして卒業資格を認定された者は，3月に本学内に掲示する。

2. 成績の評価

- (1) 評価の対象
出席時間数が学則に定められた開講時間数の3分の2に満たない者は，履修登録を行っていても成績評価の対象とならないので注意すること。
- (2) 各授業科目の成績評価
各授業科目についての成績評価を，秀（100点～90点），優（89点～80点），良（79点～70点），可（69点～60点），不可（59点以下）の5段階に分け，秀，優，良，可を合格とする。
- (3) 個人の成績の総合評価
個人の学業成績の総合評価は，GPA（グレード・ポイント・アベレージ）方式により算定される。計算式は以下のとおりで，算出された評定値の大きい順に順位がつけられる。

$$\frac{(\text{秀の科目単位数} \times \text{GP4}) + (\text{優} \times 3) + (\text{良} \times 2) + (\text{可} \times 1) + (\text{不可} \times 0)}{\text{履修単位数}} = \text{評定値}$$

- (a) 対象となる科目は「卒業要件対象科目」とする。（特別履修などによる卒業要件非加算科目は対象外）
- (b) 評定値算出には不合格科目も対象とする。
- (c) 不合格科目を再履修した場合は，最新評価結果に替えて算出する。
- (d) 前期終了時に評定値を算出する場合，当該年度に履修中の通年科目については，分母（履修単位数）に含めない。
- (e) 評定値が同じ場合には，分子が大きいものを上位とする。分子も同じ場合には同順とする。

(1) 単位修得状況による指導

1年次前期終了時に修得単位が10単位未満の者に対しては，学修意欲の促進と成績向上を目的として，クラス担任が面談等の個別指導を行う。また，**1年次終了時に修得単位が20単位未満の者**に対しては，クラス担任が面談等を行い，勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行う。なお，いずれの場合も上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含めない。また，途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応する。

(2) GPAによる指導

各年次終了時に，GPAが0.6未満の者には，退学勧告を行う。

13. 卒業研究着手の条件について

4年生に履修する卒業研究に着手するためには、3年以上在学し、100単位以上（うち、「基礎ゼミ」2単位、「児童学入門」2単位、「特別研究」4単位を含む）を修得していることが必要である。この条件に満たない場合は、3年以上在学していても、卒業研究に着手することはできないので、卒業は延期される。

注意：「卒業研究」は学年始めの4月からはじまる。3年終了時までに休学期間があると、それが1年未満であっても、着手は次の学年始めの4月まで延期されることになる。

・ 修業年限と卒業延期について

1. 修業年限

本学を卒業するためには4年以上在学しなければならない。4年を越え在学し、なお卒業できない場合でも在学年数は8年を超えることはできない。ただし、休学中の期間は在学期間に加えない。

2. 卒業延期

4年を越え在学する場合は、4月30日までに定められた所定の学費を納入しなければならない。履修届出については前年度までの方法と同じである。

なお卒業延期者に対しては、科目試験については学期末毎に、卒業試験（卒業研究）については2カ月毎に審査が行われて卒業に必要な条件が満足されれば、前者については学期末に、後者については2カ月毎の月末に卒業資格が認定される。

・ 他学部・他大学の科目の履修について

科目の5区分に属さない他学部（工学部・知識工学部・環境学部・メディア情報学部・都市生活学部）・他大学（単位互換提携をしている大学に限る）の科目は、ある一定の条件を満たさなければ履修することはできない。ただし、一定の条件を満たす場合は、「特別履修科目」として単位が認定され、「自由選択」の14単位内に含めることができる。条件等の詳細については、担当事務局に問い合わせること。

履修モデル

幼稚園教諭 1 種免許・保育士資格取得の場合

138 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
22 単位	16 単位	25 単位	21 単位	18 単位	23 単位	3 単位	10 単位
				演劇文化論	公衆衛生学	教養科目	
					国際化と異文化理解		
情報処理演習(1)		情報処理演習(2)					
日本国憲法							
Study Skills				外国語科目			
C/S(1)		C/S(2)					
		R&W(1)	R&W(2)	TOEIC Preparation			
人間と健康						体育科目	
健康と運動(1)	健康と運動(2)						
保育原理		教育原理		専門科目			
児童家庭福祉(1)		相談援助	社会福祉				
	発達心理学(1)	社会的養護(1)	教育心理学	保育者論			
	子どもの食と栄養	子どもの保健(1)	子どもの保健(2)	カリキュラム論			
		家庭支援論	子どもの保健(3)	社会的養護内容			
	乳児保育(1)	保育内容総論	障害児保育	保育内容健康指導法			
		保育内容人間関係指導法	保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	保育相談支援		
保育の表現技術 (音楽表現)(1)	保育の表現技術 (音楽表現)(2)		保育内容表現指導法		保育の表現技術 (言語表現)(2)		
保育の表現技術 (造形表現)(1)	保育の表現技術 (造形表現)(2)	保育の表現技術 (身体表現)(1)	保育の表現技術 (身体表現)(2)	保育実習(1) (保育所・施設)	保育実習(2) 保育実習指導(2) (保育所) ——または—— 保育実習(3) 保育実習指導(3) (施設)		
保育の表現技術 (言語表現)(1)				保育実習指導(1) (保育所)			
				保育実習指導(1) (施設)			
		発達心理学(2)					
幼児の生活と遊び		児童文学	幼児の造形表現指導法				
	教育学概論	子どもと数					
				幼児教育方法論			
				幼稚園教育実習(1)	幼児理解の理論と方法	幼稚園教育実習(2)	
				幼稚園教育実習指導(1)	教育相談	幼稚園教育実習指導(2)	
				キャリアデザイン入門			
幼児の生活と自然環境		子育て支援演習					
児童学入門		食農文化と子育て(1)					
基礎ゼミ				特別研究		卒業研究	
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目			
				インターンシップ(1)	インターンシップ(2)	ボランティア(1)	ボランティア(2)

保育士資格取得の場合

124 単位

1 年		2 年		3 年		4 年		
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
22 単位	16 単位	20 単位	21 単位	11 単位	19 単位	5 単位	10 単位	
				演劇文化論	公衆衛生学	教養科目		
日本国憲法								
情報処理演習 (1)	情報処理演習 (2)	情報処理演習 (3)	情報処理演習 (4)					
Study Skills						外国語科目		
C/S (1)	C/S (2)							
	R&W (1)	R&W (2)	TOEIC Preparation					
人間と健康						体育科目		
健康と運動 (1)	健康と運動 (2)							
保育原理		教育原理				専門科目		
児童家庭福祉 (1)		相談援助	社会福祉					
	発達心理学 (1)	社会的養護 (1)	教育心理学			保育者論		
	子どもの食と栄養	子どもの保健 (1)	子どもの保健 (2)			カリキュラム論		
		家庭支援論	子どもの保健 (3)			社会的養護内容		
	乳児保育 (1)	保育内容総論	障害児保育			保育内容健康指導法		
		保育内容人間関係指導法	保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	保育相談支援			
保育の表現技術 (音楽表現) (1)	保育の表現技術 (音楽表現) (2)		保育内容表現指導法		保育の表現技術 (言語表現) (2)			
保育の表現技術 (造形表現) (1)	保育の表現技術 (造形表現) (2)	保育の表現技術 (身体表現) (1)	保育の表現技術 (身体表現) (2)	保育実習 (1) (保育所・施設)		保育実習 (2) (保育所)	保育・教職実践演習 (幼稚園)	
保育の表現技術 (言語表現) (1)				保育実習指導 (1) (保育所)		——または——		
				保育実習指導 (1) (施設)		保育実習 (3)		
						保育実習指導 (3) (施設)		
						児童館論		
教育学概論								
				キャリアデザイン入門	キャリアデザイン (1)	キャリアデザイン (2)		
幼児の生活と自然環境								
人間科学概論			子育て支援演習					
児童学入門			食農文化と子育て (1)	食農文化と子育て (2)				
基礎ゼミ					特別研究	卒業研究		
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目		インターンシップ (1)	インターンシップ (2)	ボランティア (1)
								ボランティア (2)

幼稚園教諭 1 種免許取得の場合

124 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
24 単位	12 単位	23 単位	16 単位	15 単位	18 単位	6 単位	10 単位
心理学概論		日本文学		教養科目			
日本国憲法							
情報処理演習(1)		情報処理演習(2)		情報処理演習(3)		情報処理演習(4)	
Study Skills				外国語科目			
C/S(1)		C/S(2)					
R&W(1)		R&W(2)		TOEIC Preparation			
人間と健康				体育科目			
健康と運動(1)		健康と運動(2)					
保育原理		教育原理		専門科目			
児童家庭福祉(1)							
発達心理学(1)		教育心理学		保育者論		カリキュラム論	
		保育内容総論		保育内容健康指導法			
		保育内容人間関係指導法		保育内容言葉指導法		保育内容環境指導法	
保育の表現技術 (音楽表現)(1)		保育の表現技術 (音楽表現)(2)		保育内容表現指導法			
保育の表現技術 (造形表現)(1)		保育の表現技術 (造形表現)(2)		保育の表現技術 (身体表現)(1)		保育の表現技術 (身体表現)(2)	
保育の表現技術 (言語表現)(1)						保育・教職実践演習(幼稚園)	
児童家庭福祉(2)		発達心理学(2)				臨床心理学	
		保育の表現技術 (音楽表現)(3)		保育の表現技術 (音楽表現)(4)		子どもと昔話	
		保育の表現技術 (造形表現)(3)		地域と伝承文化		フィールドワーク研究	
幼児の生活と遊び		児童文学				児童館論	
		子どもと数		幼児の身体表現指導法			
				幼児の音楽表現指導法			
				幼児教育方法論			
		幼稚園教育実習(1)		幼児理解の理論と方法		幼稚園教育実習(2)	
		幼稚園教育実習指導(1)		教育相談		幼稚園教育実習指導(2)	
		キャリアデザイン入門		キャリアデザイン(1)		キャリアデザイン(2)	
人間科学概論		子育て支援演習					
児童学入門		食文化と子育て(1)					
基礎ゼミ				特別研究		卒業研究	
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目			
				インターンシップ(1)	インターンシップ(2)	ボランティア(1)	ボランティア(2)

資格・免許取得せずの場合

124 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
22 単位	18 単位	20 単位	18 単位	17 単位	17 単位	6 単位	6 単位
心理学概論		日本文化の伝承		日本文学		地域福祉論	
		日本国憲法		演劇文化論		公衆衛生学	
情報処理演習 (1)		情報処理演習 (2)		情報処理演習 (3)		情報処理演習 (4)	
Study Skills							
C/S (1)		C/S (2)					
		R&W (1)		R&W (2)		TOEIC Preparation	
人間と健康							
健康と運動 (1)		健康と運動 (2)					
保育原理		教育原理					
児童家庭福祉 (1)		相談援助		社会福祉			
		社会的養護 (1)		教育心理学		保育者論	
発達心理学 (1)		子どもの食と栄養		子どもの保健 (1)		子どもの保健 (2)	
		家庭支援論				社会的養護内容	
乳児保育 (1)		保育内容総論		障害児保育			
				保育内容環境指導法			
児童文化 (1)		児童家庭福祉 (2)		発達心理学 (2)		乳児保育 (2)	
手話						社会的養護 (2)	
						臨床心理学	
						子どもと昔話	
						比較保育学	
						地域と伝承文化	
						フィールドワーク研究	
						児童館論	

履修系統図

1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基礎となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識と技術を修得している。
2. 「体験プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力をつけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。
3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。
4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応する倫理観および社会的責任を修得している。

DP

領域		DP1	DP2	DP3	DP4
4年後期		保育教職実践演習(幼稚園) 保育実習(2) 保育所 保育実習指導(2) 保育実習指導(3)	子育て支援演習(2,3,4年)	卒業研究(通年)	インターンシップ(1)* ボランティア(1)* インターンシップ(2)* ボランティア(2)*
4年前期					比較保育学 児童館論
3年後期		幼稚園教育実習指導(2) 幼稚園教育実習(2) 保育実習指導(1) 保育所 保育実習指導(1) 施設 保育実習(1) 保育所・施設	保育者論 保育の基礎技術(音楽表現)(2) 幼児の発達表現指導法 幼児の身体表現指導法 幼児の音楽表現指導法	公衆衛生学 社会的養護内容 幼児理解の理論と方法	フィールドワーク研究 キャリアデザイン(2) キャリアデザイン(1)
3年前期					子どもと書誌 地域と伝承文化 児童文化(2)
2年後期		幼稚園教育実習指導(1) 幼稚園教育実習(1) 教育原理 保育内容総論 発達心理学(2)	保育の基礎技術(音楽表現)(4) 保育の基礎技術(身体表現)(2) 保育の基礎技術(音楽表現)(3) 保育の基礎技術(身体表現)(1)	障害児保育 社会福祉 家庭支援論 相談援助	キャリアデザイン入門 TOEIC Preparation 児童文学 Reading and Writing(2)
2年前期					海外研修 食文化と子育て(2) 食文化と子育て(1) 子どもと歌
1年後期		発達心理学(1) 情報処理演習(2) 日本国憲法 人間と健康	保育の基礎技術(音楽表現)(2) 健康と運動(2) 保育の基礎技術(音楽表現)(1) 健康と運動(1)	子どもの食と栄養 児童看護福祉(2) 人間科学総論 児童看護福祉(1)	乳児保育(1) Reading and Writing(1) Study Skills Communication Skills(1)
1年前期					基礎ゼミ 児童学入門 児童の生活と遊び 児童の生活と遊び 児童看護福祉(1) 児童看護福祉(1)

* 学年設定なし

「保育士」「幼稚園教諭1種免許状」に関する「実習」について

本学人間科学部児童学科は、「保育士」資格と「幼稚園教諭1種免許状」を取得することができる。詳細は次頁以降を参照すること。

ここでは、「保育士」「幼稚園教諭1種免許状」に関して、それぞれで行う「実習」について一覧にまとめた。実習そのものと、その準備のための授業科目があるので注意すること。

	保 育 士				幼稚園教諭第1種免許状	
	○必修として 「保育所」「施設」の 両方の実習を行う		△選択必修として 「保育所」または「施設」の どちらかの実習を行う。		○必修として 「(1)[通称：観察実習]」と 「(2)[通称：責任実習]」の 両方の実習を行う	
実 習 授業科目	保育実習(1)(保育所・施設)		保育実習(2)(保育所)	保育実習(3)(施設)	幼稚園教育実習(1)	幼稚園教育実習(2)
実習準備 授業科目	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)		保育実習指導(2)(保育所)	保育実習指導(3)(施設)	幼稚園教育実習指導(1)	幼稚園教育実習指導(2)
実習先	保育所	施設	保育所	施設	幼稚園 (観察実習)	幼稚園 (責任実習)
1 年						
2 年	9月実習費納入				4月実習費納入	
					後期授業科目	
					2月頃：実習	
3 年	前期授業科目 6月頃：実習 8月頃：実習					
						後期授業科目 2月頃：実習
4 年			前期授業科目 6月頃：実習	前期授業科目 8月頃：実習		

「保育士」資格の取得について

本学人間科学部児童学科は、「指定保育士養成施設」として指定されている。これにより「保育士」資格を取得するには、卒業要件を充足し、かつ児童福祉法および同施行規則の定めるところによる別表の専門科目の中から、所定の単位を修得しなければならない。

1. 資格の種類

保育士

2. 履修手続きについて

オリエンテーション等で履修に関する指導・説明を受けた上、履修登録時に、資格取得に必要な科目を登録すること。

なお、保育実習には、別途「保育実習費」として¥70,000を、2年次後期に徴収する。詳細は、保育実習希望者を対象に行うガイダンスで確認すること。

※一旦納入した保育実習費は、理由の如何にかかわらず返還しない。

3. 履修制限について

保育士を養成する社会的責任から、次の条件を設けて履修者を制限することがある。

- (1) 学則等学内の規程により処分等を受けた場合
- (2) 授業等への出席状況が著しく悪い者
- (3) その他、保育士を志す者としてふさわしくない者

4. 「保育実習」について

保育士資格取得のためには、次の実習に参加して、単位を修得しなければならない。

①実習の種別と期間

授業科目と種別		期 間			実 習 指 導 科 目
保育実習(1)(保育所・施設)	保育所	第3学年	6月中旬	12日間	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)
	施設	第3学年	7月下旬から 9月中旬	12日間	
保育実習(2)(保育所)	保育所	第4学年	6月下旬	12日間	保育実習指導(2)(保育所)
または 保育実習(3)(施設)	施設	第4学年	7月下旬から 9月中旬	12日間	保育実習指導(3)(施設)

※実習期間の「12日間」については、実習先に実習時間(90時間)を満たすこととして依頼しており、各施設において調整される。

②実習の基準

実習に参加するためには、以下の専門科目の単位を修得するか、履修中であることが必要である。

教科目区分	修得科目または単位数
保育の本質・目的に関する科目	4科目 10単位以上
保育の対象の理解に関する科目	3科目 6単位以上
保育の内容・方法に関する科目	5科目 10単位以上
保育の表現技術	3科目 4単位以上

別表 児童福祉法施行規則に基づく履修科目

	告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備 考
	系 列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			
							必修	選択	計	
012	教 養 科 目	外国語，体育 以外の科目	不問	6 以上	日本文学	講義		2	2	
029					日本国憲法	講義		2	2	
043					心理学概論	講義		2	2	
046					国際化と異文化理解	講義		2	2	
048					演劇文化論	講義		2	2	
049					地域福祉論	講義		2	2	
050					現代の疾病と食生活	講義		2	2	
053					生活とメディア	講義		2	2	
054					公衆衛生学	講義		2	2	
057					情報処理演習(1)	演習	1		1	
058					情報処理演習(2)	演習	1		1	
059					情報処理演習(3)	演習		1	1	
060					情報処理演習(4)	演習		1	1	
068					外国語	演習	2 以上	Study Skills	演習	
069		Communication Skills(1)	演習	1					1	
070		Communication Skills(2)	演習	1					1	
071		Reading and Writing(1)	演習					1	1	
072		Reading and Writing(2)	演習					1	1	
073	TOEIC Preparation	演習		1				1		
107	体育	講義	1	人間と健康	講義	2		2		
108		実技	1	健康と運動(1)	実技	1		1		
109				健康と運動(2)	実技	1		1		
	合 計		1 0 単位以上				8	24	32	
32 単位 (≧10 単位)										

「保育士」資格の取得について

告示別表第 1 による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備 考
系列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			
						必修	選択	計	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2	110
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		2	111
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉(1)	講義	2		2	112
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		2	113
	相談援助	演習	1	相談援助	演習	2		2	114
	社会的養護	講義	2	社会的養護(1)	講義	2		2	115
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2	116
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	発達心理学(1)	講義	2		2	117
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	教育心理学	演習	2		2	118
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健(1)	講義	2		2	119
				子どもの保健(2)	講義	2		2	120
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健(3)	演習	1		1	121
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2	122
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義	2		2	123
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	カリキュラム論	講義	2		2	124
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2		2	125
	保育内容演習	演習	5	保育内容健康指導法	演習	2		2	126
				保育内容人間関係指導法	演習	2		2	127
				保育内容環境指導法	演習	2		2	128
				保育内容言葉指導法	演習	2		2	129
				保育内容表現指導法	演習	2		2	130
	乳児保育	演習	2	乳児保育(1)	演習	2		2	131
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		2	132
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習	2		2	133
保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習	2		2	134	
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	保育の表現技術(音楽表現)(1)	演習	1		1	135
				保育の表現技術(音楽表現)(2)	演習	1		1	136
				保育の表現技術(造形表現)(1)	演習	1		1	137
				保育の表現技術(造形表現)(2)	演習	1		1	138
				保育の表現技術(身体表現)(1)	演習	2		2	139
				保育の表現技術(身体表現)(2)	演習	2		2	140
				保育の表現技術(言語表現)(1)	演習	2		2	141
				保育の表現技術(言語表現)(2)	演習	2		2	142
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習(1)(保育所・施設)	実習	4		4	143
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導(1)(保育所)	演習	1		1	144
				保育実習指導(1)(施設)	演習	1		1	145
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		2	150
合 計		5 1 単位				69	0	69	
				69 単位 (≥51 単位)					

告示別表第2による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備 考
系列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設されて いる教科目	授業 形態	単 位 数			
						必修	選択	計	
151	各指定保育士 養成施設において 設定		15 単 位 以 上	社会的養護(2)	講義		2	2	
152				児童家庭福祉(2)	講義		2	2	
153				発達心理学(2)	演習		2	2	
154				臨床心理学	演習		2	2	
155				乳児保育(2)	演習		2	2	
156				保育の表現技術(音楽表現)(3)	演習		1	1	
157				保育の表現技術(音楽表現)(4)	演習		1	1	
158				保育の表現技術(造形表現)(3)	演習		2	2	
159				児童文化(1)	演習		2	2	
160				児童文化(2)	演習		2	2	
161				子どもと昔話	講義		2	2	
162				地域と伝承文化	講義		2	2	
163				フィールドワーク研究	演習		2	2	
164				手話	演習		2	2	
165				比較保育学	演習		2	2	
166				児童館論	講義		2	2	
186				幼児の生活と自然環境	実習	2		2	
188				子育て支援演習	演習	2		2	
189				食農文化と子育て(1)	演習	2		2	
190				食農文化と子育て(2)	演習		2	2	
191				人間科学概論	講義		2	2	
192				児童学入門	講義		2	2	
193				基礎ゼミ	演習	2		2	
194				特別研究	演習	4		4	
195				卒業研究	演習	6		6	
146	保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習(2)(保育所)	実習		2	どちらかを 選択して履修
147		保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導(2)(保育所)	演習		1	
148		保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習(3)(施設)	実習		2	
149		保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導(3)(施設)	演習		1	
合 計		1 8 単位以上				18	42	60	
				60 単位 (≧18 単位)					

保育士資格取得科目ではないが、
学校独自の科目として開設されて
いる教科目

H28 の教育課程表に掲載されている全科目のうち、告示(別表第1・別表第2)に
よる教科目(P. 66~68)に掲載されていない全ての科目が該当する。

「幼稚園教諭 1 種免許状」の取得について

本学人間科学部児童学科では、幼稚園教諭免許状の取得に関連した幼児教育に関する科目を開講している。この免許状を希望する場合は、所定の科目を修めることにより幼稚園教諭 1 種免許状を取得することが可能である。

1. 免許状の種類

幼稚園教諭 1 種免許状

2. 履修手続きについて

オリエンテーション等で履修に関する指導・説明を受けた上、履修登録時に、免許取得に必要な科目を登録すること。
なお、教育実習には、別途「教育実習費」として¥50,000を、2年次前期に徴収する。詳細は、教育実習希望者を対象に行うガイダンスで確認すること。

※一旦納入した教育実習費は、理由の如何にかかわらず返還しない。

3. 履修制限について

幼稚園教諭を養成する社会的責任から、次の条件を設けて履修者を制限することがある。

- (1) 学則等学内の規程により処分等を受けた場合
- (2) 授業等への出席状況が著しく悪い者
- (3) その他、幼稚園教諭を志す者としてふさわしくない者

4. 幼稚園教諭 1 種免許状を取得するためには、次の要件を充足しなければならない。

(1) 基礎資格

学士の学位を有すること

(2) 大学において修得することを必要とする最低単位数

①免許法施行規則に定める科目区分において、最低修得単位数として、以下を充たすこと

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目 教育の基礎理論に関する科目 教育課程及び指導法に関する科目 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 教職実践演習 教育実習	35単位
教科に関する科目	国語、算数、生活、音楽、図画工作、体育、 これら科目に含まれる内容を合わせた内容に係る科目 その他これら科目に準ずる内容の科目	6単位
教科又は教職に関する科目	上記の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」 の各区分の必要最少単位数を超えて修得する科目、 教職に関する科目に準ずる科目	10単位

②「教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目」として、日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位、情報機器の操作2単位を修得すること

教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目	日本国憲法	2単位
	体育	2単位
	外国語コミュニケーション	2単位
	情報機器の操作	2単位

上表の単位要件を充たすために、本学人間科学部児童学科では、それぞれの科目区分に対応する授業科目を、次頁の通り開設している。

この表により単位を修得することで、幼稚園教諭 1 種免許状の単位要件を充たすことができる。

教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			備 考
科目	各科目に含める必要事項	単 位 最低 修得 数	授業科目	単位数		
				必修	選択	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	保育者論	2		
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理	2	2	教育原理の中に含める
	教育学概論					
	・教育に関する社会的，制度的又は経営的事項		発達心理学(1)	2		
	・幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		発達心理学(2)	2		
			教育心理学	2		
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	18	カリキュラム論	2		これら3科目より1科目選択必修
	・保育内容の指導法		保育内容健康指導法	2		
			保育内容人間関係指導法	2		
			保育内容環境指導法	2		
			保育内容言葉指導法	2		
			保育内容表現指導法	2		
			保育内容総論	2		
			幼児の造形表現指導法	2		
			幼児の身体表現指導法	2		
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		幼児教育方法論	2		
生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	2	幼児理解の理論と方法	2		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
教職実践演習		2	保育・教職実践演習（幼稚園）	2		
教育実習		5	幼稚園教育実習（1）	2		
			幼稚園教育実習指導（1）	1		
			幼稚園教育実習（2）	2		
			幼稚園教育実習指導（2）	1		

履修上の参考MEMO

「免許法施行規則に定める科目区分等」
として必要な単位数合計

35

本学で開設している科目

必修 38
選択 8

教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	単 位 最 低 修 得 数	左記に対応する本学の開設授業科目			備 考
		授業科目	単位数		
			必修	選択	
国語	6	児童文学	2		168
算数		子どもと数	2		169
生活					開設なし
音楽		保育の表現技術(音楽表現)(1)	1		135
		保育の表現技術(音楽表現)(2)	1		136
		保育の表現技術(音楽表現)(3)		1	156
		保育の表現技術(音楽表現)(4)		1	157
図画工作		保育の表現技術(造形表現)(1)	1		137
		保育の表現技術(造形表現)(2)	1		138
		保育の表現技術(造形表現)(3)		2	158
体育	保育の表現技術(身体表現)(1)	2		139	
	保育の表現技術(身体表現)(2)		2	140	
これら科目に含まれる内容を合わせた内容に係る科目その他これら科目に準ずる内容の科目		幼児の生活と遊び	2		167
6		12		6	

教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	最低 修得 単 位 数	左記に対応する本学の開設授業科目			備 考
		授業科目	単位数		
			必修	選択	
(教科又は教職に関する科目)	10	最低修得単位数を超えて履修した 「教科に関する科目」若しくは 「教職に関する科目」について、 併せて10単位以上修得			
	10	人間科学部の場合、「教科…」 「教職…」を前記指定通り履修すればほぼ自動的にクリアする状況になる			

教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	最低 修得 単 位 数	左記に対応する本学の開設授業科目			備 考
		授業科目	単位数		
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		029
体 育	2	健康と運動(1)	1		108
		健康と運動(2)	1		109
外国語コミュニケーション	2	Communication Skills(1)	1		069
		Communication Skills(2)	1		070
情報機器の操作	2	情報処理演習(1)	1		057
		情報処理演習(2)	1		058
8		8			

東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）

TOKYO CITY UNIVERSITY AUSTRALIA PROGRAM 【通称 TAP】



1. TAPが目指す人材像

都市大の伝統である実践的な専門力を有した国際人がTAPの目指す人材像である。
「英語で学び、英語で考え、英語で議論する」を達成目標とする。

2. TAPの目標

TAPは、1年次の準備教育と2年次の5か月間の留学を合わせた2年間に亘る本学独自の国際人育成プログラムである。このプログラムを通じて、国際的な視野とコミュニケーション能力を持った、時代に柔軟に対応できる人材を育てる。留学先の西オーストラリア州は、アジア、ヨーロッパ、アフリカなどのさまざまな国の出身者が暮らす多様性に富んだ州であり、このような恵まれた環境の中で、学生は国際人としてグローバルに活躍するために語学力と異文化を理解する力を磨きながら、自主性や自立心を高める。

3. プログラム概要

1年次の準備教育として、語学準備講座と留学準備研修を提供する。2年次の5か月間は、西オーストラリア州パース近郊にあるエディスコーワン大学（以下ECU）に留学し、英語と教養科目を学ぶ。

(1) 参加対象学部学科・募集定員・派遣期間（平成28年度入学者）

工学部 全8学科	定員80名	サイクルB	2017年8月～12月
知識工学部 情報科学科+自然科学科	定員15名		
環境学部 環境創生学科	定員15名	サイクルA	2017年2月～6月
環境学部 環境マネジメント学科	定員10名	サイクルB	2017年8月～12月
メディア情報学部 社会メディア学科	定員15名	サイクルA	2017年2月～6月
メディア情報学部 情報システム学科	定員5名	サイクルB	2017年8月～12月
都市生活学部 都市生活学科	定員90名	サイクルA	2017年2月～6月
人間科学部 児童学科	定員2名		

(2) 派遣先

エディスコーワン大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）

(3) 参加費用

- 90万円 ・準備教育、航空運賃、学生寮、教材費、査証取得費用などを含む。
・支払い時期については、募集説明会時に詳細を説明する。

4. プログラム内容

1. 準備教育 < TAP in Japan >

2年に亘る日本での準備教育とオーストラリアでの体験を通しての国際人育成プログラムがTAPの魅力である。留学前の準備教育では、語学準備講座と留学準備研修の2つのプログラムが提供される。

1-1. 語学準備講座 < Preparation for English >

出発までに、TOEIC550点以上の取得を目指し、ネイティブスピーカーによるレッスンを週5日、オーストラリア留学に備えて合計100回のレッスンを受ける。レッスンは授業期間中の空き時間に行われ、その内容は「読む・書く・聞く・話す」の4技能の習得に加え、プレゼンテーションスキルなども磨く。

1-2. 留学準備研修 < Global Personnel Training in Japan >

国際人として成長するための準備として、異文化理解やコミュニケーション能力を高めるためのプログラムを提供する。研修会は、原則月1回開催予定である。その内容は、ゲストスピーカーによる講演会、留学経験を活かすためのキャリアガイダンス、危機管理セミナーなどに加え、異文化理解のためのグループワークなども行う。また、現地で日本文化を紹介するための勉強会なども企画している。

2. オーストラリア留学 < Study Abroad at ECU >

1 年次終了の 2 月から（サイクル A）、または、2 年次の 8 月から（サイクル B）、約 5 か月間 ECU に留学する。ECU では最初の 9 週間キャンパス内の語学学校で他国の留学生とともに英語のスキルを上げるためのクラスに参加する。その後の 7 週間は国際人として必要な教養を身につけるための科目を学ぶ。

ECU における授業科目

英語科目 （9 週間） English language Education	Academic English (1)	3 単位
	Academic English (2)	3 単位
	Academic English (3)	3 単位
	Academic English (4)	3 単位
	Academic English (5)	1 単位
教養科目 （7 週間） General Education	Collaborative Design	2 単位
	Social, Cultural and Media Studies	2 単位
	International Relations	2 単位
	Urban Observation	2 単位

3. 現地での過ごし方

留学中は ECU キャンパス内にある学生寮に滞在する。約 5 か月の長期滞在のメリットを生かし、現地学生や他国の留学生と交流を深めることができる。また、現地では、ECU の学生団体主催のイベントや寮主催のイベントに参加するなど充実したアクティビティを体験することも可能である。さらに、TAP 参加者対象のアクティブプログラム事業（Let's be Active in TAP（以下 LBA））を利用した自発的な活動により、多くの現地での交流の機会を得ることができる。

4. 帰国後の過ごし方

留学前及び留学後は、TOEIC テストを受験することとしており、自分がどれだけ成長したかを確認することができる。帰国後、3 年生になると、海外インターンシッププログラム、協定大学への交換留学及び各学部学科主催の海外フィールドワーク研修などにチャレンジする機会がある。そのためにも、TAP では、語学力の向上を目指して努力してほしい。

5. TAP の参加方法

1 年次 4 月の入学オリエンテーション期間中に、TAP 参加募集説明会を開催する。その説明内容をよく理解した上で参加を検討することとなる。参加を希望する場合は、4 月初旬から中旬までの募集期間の間に、各キャンパス事務取扱窓口にて、申し込みをする。TAP は定員 200 名の選抜制なので、その結果は、申し込み締め切り日の翌週に、窓口及びポータルサイトで発表され、参加が認められたら、所定の手続きを行い、準備講座に参加することとなる。

6. 奨学金制度

学校法人五島育英会「夢に翼を奨学金」より、TAP に対して次の奨学金制度がある。

(1) TAP アワード

参加人数の上位 20 % の学生に奨学金が給費される。この奨学金は、語学準備講座の成績、TAP に参加し ECU で修得した成績、留学後の TOEIC テストなど大学が指定した英語能力テストの成績及び出席状況などを基に総合的に審査した結果、成績上位 20 % の以内の人物優秀なものに対して奨学金を給費する（帰国後の給費となる）。

(2) LBA サポート

豪州留学中の学生（個人又はグループ）による自発的な事業（LBA）に対して、審査の結果採択された場合に奨学金を給費する。

※人間科学部児童学科は、TAP に参加した場合、4 年間では保育士資格および幼稚園教諭一種免許状を取得できない場合もある。



科目概要

教養科目

哲学(1)

001

Philosophy(1)

「政治学」や「心理学」といった学問は、学問名自体が研究対象を大まかに指し示していますが、「哲学」はそうではありません（「哲学」の「哲」はけっして研究対象を示しているわけではない）。では、いったい哲学の「哲」は何を意味するのでしょうか。また哲学はそもそも何を研究する学問なのでしょうか。前期の哲学の講義では、この根本的な問いに対する答えを、西洋哲学の源流である古代ギリシャ思想に遡りつつ探り出してゆきます。

哲学(2)

002

Philosophy(2)

このシラバスを書いている「私」は「大野」ですが、だからといって「私」を「大野」と規定することはできません。そんなことをすれば、（「私」と自らを名指す人は何十億といるため）世界は「大野」で溢れかえってしまうからです。では「私」とはどうとらえるべきなのでしょうか。

後期の講義では、この問いに対する解答を、主にデカルトの思索を手掛かりにしながら探し求めてゆきます。

倫理学(1)

003

Ethics(1)

倫理学は、哲学の一分野であり、人と人との間に生成する価値、規範、善悪などを考える学問である。

私と他者、そして両者を架橋する言葉の問題を中心に講義する。

倫理学(2)

004

Ethics(2)

バイオメディカル・エシックス(生命医学倫理)を講義する。

生命が問われる現場では価値観・倫理観が激しく対立する。

生命の問題を医学・医療関係者に任せきりにせず、自らの問いとして考えてみよう。

倫理学

005

Ethics

古来、哲学者たちは「善／悪とは何か?」、「いかに行為すべきか?」という倫理的・道徳的問題を扱ってきた。こうした問題は、私たちが生きていく上で多かれ少なかれ問わざるを得ない問題である。しかし近年は、科学技術の発達により、さらに高度に枝分かれし専門化した文

脈においてこうした問題が問われるようになってきた。こうした時代の要請に応える学問分野として登場してきたのが応用倫理学である。この授業では、その下位領域としての環境倫理学と情報倫理学を扱う。

文化人類学

006

Cultural Anthropology

文化人類学は文化を「ものさし」としながら、人類が持つ共通点と差異を見出そうとしてきました。本授業では人類学者の視点の取り方を、誤解や思い込みをも含んだ形で映像、文章などを通して追体験していくことで、人類学という学問の歩みをともに踏み固めるとともに、現代人類学の模索にまで踏み込んでみたいと思います。

視覚芸術史(1)

007

History of Visual Arts(1)

絵画と彫刻が美術の全てではない。建築やデザインも美術の範疇に含まれる。厳密に美術の範囲を規定することにそれほど意味はない。しかし「芸術とは何か」という問いには、真摯に向き合わなければならない。本講義はこうした姿勢を培うことを目的とする。

視覚芸術史(2)

008

History of Visual Arts(2)

17 世紀の西洋社会における科学革命によって「近代主義」がはじまり、それによって 18 世紀の産業革命が起こり、芸術の分野がそれを自覚するのは 19 世紀の半ばといわれている。新しい絵画は印象主義より始まる。本講義では、印象主義以降の絵画、建築、デザインを扱う。

デザイン概論(1)

009

Introduction to Design:Theory and History(1)

「デザインとは何か」という問いの一つの解答を導けるよう本講義を行ないたい。そのため機能と形態の関わりを中心として、デザインという言葉あまり広くとりすぎないよう「もの」に即して考察していく。本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

デザイン概論(2)

010

Introduction to Design:Theory and History(2)

本講義は「デザイン概論(1)」と関連し、もののデザインについて講義していく。特に、ここでは「日本再発見」というテーマで、日本のデザインに着目し、伝統的なものから現代のものまでを見ていきたい。デザインは、社会の動向と無関係ではないため、時事に即した問題についても随時とりあげる。

文学	011
Literature	
本授業では英国と米国の代表的な文学作品を紹介しながら、その根底にある物語のあり方を検討する。古代の神話や民話の主人公にも共通するよく利用される物語の枠組みに着目する。ルネッサンス時代の演劇作品から19世紀、20世紀初頭へと歴史の流れの中で人間は何を考え、いかに行動して世界を変えたのか。映像と資料を使いながら、現代に生きる私たちの視点から考察を行う。	
日本文学	012
Japanese Literature	
古今東西の文学作品から、現代にも通じるものを選び、文学の意義とその鑑賞の方法を知る。また、幅広く奥の深い文学の世界を探索するために、文学のジャンル、作家群、文学批評についても知る。	
西洋史(1)	013
European History (1)	
古代ローマから中世末期に至るまでの西洋史を概観する。その際、都市構造の変化を縦軸に、各時代の社会状況を横軸に据えながら、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また『グリム童話』などのポピュラーな話を素材にしながら、その背後に隠された時代状況を読み解く。	
西洋史(2)	014
European History (2)	
ルネサンス以降の西洋史を近代まで概観する。都市構造の変化を縦軸に据えながら、各時代の社会状況を横軸に据えて、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また飲み物やレジャーなど日常的なものを素材にしながら、それと当時の世界情勢との関係も読み解く。	
民俗学	015
Folklore Studies	
「一日・一年・一生」の民俗学	
日本民俗学は日本という地域を主な対象に、人々の生活を大きなスパンで眺めてきました。その中で、特に大事にしてきたのが日常、つまり「当たり前」の生活でした。本科目では、人々の生活感覚に繋がる三つの異なる時間幅としての「一日」「一年」「一生」を軸に、民俗学が注目してきた人々の「当たり前」の生活を、皆さん自身の現在に繋げながら理解を深めていきます。	

比較文化史	016
Comparative Cultural History	
Large cities in Japan today look much like large cities in the US and Europe. There is no question that modern day Japan has been greatly influenced by the history and culture of the west. And in many regards, the resultant similarities are apparent. However, in the experience of this lecturer, at a fundamental level no two cultures are more different than Japan and the US. Based on that personal experience, this class will examine several aspects whereby the cultural history of Japan and the US differ and consider possible implications for the role of Japan in the future development of global society.	
宗教学	017
Religious Studies	
三大一神教を中心に、世界で主要な宗教の教義、思想、実践について学ぶ。また、宗教に関する国際問題について学び、宗教が現代社会において果たす役割について考える。	
社会学(1)	018
Sociology (1)	
社会学には独自の専門用語が数多く登場し、研究対象となる領域も多岐にわたるため、そのイメージがつかみにくい学問であるといわれている。そのため、本講義では、社会学の基礎的概念を取り上げながらさまざまな主題について検討することで、社会学の基本的思考法を理解し、そのイメージの明確化を図ることにしたい。	
また、日常生活で身の回りに見出すことのできる社会現象やトピックに随時言及することで、社会学という学問の輪郭を具体化できるように心がけたい。	
社会学(2)	019
Sociology (2)	
社会学には独自の専門用語が数多く登場し、研究対象となる領域も多岐にわたるため、そのイメージがつかみにくい学問であるといわれている。そのため、本講義では、社会学の基礎的概念を取り上げながらさまざまな主題について検討することで、社会学の基本的思考法を理解し、そのイメージの明確化を図ることにしたい。また、日常生活で身の回りに見出すことのできる社会現象やトピックに随時言及することで、社会学という学問の輪郭を具体化できるように心がけたい。	

社会学入門

020

Introduction to Sociology

社会学入門では、社会学で培われてきた基本的な考えかたを学ぶことで、私たちが生きる社会のしくみを読み解いていくための基礎体力をつけることを目的とする。社会は個人の存在なくしてはなりたないが、単なる個人の集まりでもない。私たちは社会によって拘束されているが、社会を変えることも不可能ではない。このようなジレンマをひとつひとつ解きほぐしていくことで、社会の「なりたち」が見えてくる。社会のなりたちを理解することで、私たちが生きる社会への見通しをよくしていく。社会学入門とは、そんな講義である。

経済学(1)

021

Economics(1)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのミクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。

経済学(2)

022

Economics(2)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのマクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。

日本経済論

023

Japanese Economy and Economics

日本経済の現状と課題、およびそれを示す主要指標を学ぶ。最初に日本経済の現状と課題および歴史を概観し問題意識を高める。経済政策の枠組みを学んだあと、財政、金融、地域、企業、雇用、エネルギー、環境などの分野別考察を行い、最後に全体をまとめる。

政治学(1)

024

Political Science(1)

政治とは、私たち自身が当事者であるさまざまな問題

を共同で解決しようとする営みである。人間の自由な活動は日々新たな問題を生み出す。政治学はそうした問題を理性的に考え、解決や判断を行うための道具箱であると同時に、政治それ自体を批判的に理解するための手段である。本講義ではまず、政治学の方法および基礎概念を簡潔に解説する。次に、現代政治学の基本問題のいくつかを取り上げ、その歴史的な経緯と現状を検討していく。

政治学(2)

025

Political Science(2)

哲学者たちは古来より政治という営みの本質について、またその在るべき姿について考察してきた。政治とは結局のところ権力者同士の闘争のことであるのか、それとも市民の自由な善き生が開花する場なのか。政府はどのような目的のもとで設立され、その権力行使の限界はどのように画定されるべきか。政治学の目的は、政治という人間の営為を分析・理解する一方で、政治の現実を変革する可能性を示すことにある。本講義は政治学の基本的諸問題を、それらの問題を提起した古典の文献の講読を通じて検討していく。時事的問題についても適宜取り上げ、コメントシートを用いて受講者と討論する。

日本の政治

026

Modern Politics in Japan

1945年の連合国の占領から今日までの日本の政治の歴史をいくつかの時代に区切り、それぞれの時代に見られた政治の特徴と政治運営の仕組みを解説する。

国際関係論(1)

027

International Relations(1)

国家は政治や経済、安全保障などさまざまな領域において外国との間で互いに利害関係を調整し、複雑な国際関係を築いている。本講義では国際関係の歴史を振り返りながら、国家が果たす役割について理解し、国家を介して我々が国際社会といかにしてつながっているかについて考察する。

また本講義では新聞記事やニュースで取り上げられた事件をとりあげながら、その背後にある国際関係をめぐる様々な問題についても解説する予定である。

国際関係論(2)

028

International Relations(2)

戦後の日本外交、特に、日米関係、日露(日ソ)関係、日台・日中関係、日韓・日朝関係に絞って概説し、現在の日本外交が直面している問題点について講義する。

日本国憲法

029

The Constitution of Japan

世界の歴史において、憲法というものが必要とされた背景をたどりながら、日本国憲法の存在意義を学ぶ。憲法は国家の基本法として、とりわけ国政に影響し、国政を通じて、国民の日常生活にも関わってくるものであるから、人権の保障、国民の自由および権利、人間の尊厳、平和問題ならびに国家の役割などについて多角的具体的に検討し、現実の諸問題を分析できるような知識を身につける。同時に、このことを通じて、人として持つべき倫理観、また、わが国のみならず諸外国の伝統や文化も尊重する態度を養う。

法学

030

Jurisprudence

本講義では、法学についての基礎的なことから概観したうえで、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。まず、民法の歴史および構造を概観したうえで、個別のルール（総則、物権、債権総論、契約）について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

民法

031

Civil Law

本講義では、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。具体的には、債権総論、物権、親族、相続について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

行政史

032

History of the Bureaucracy

大日本帝国憲法から日本国憲法に変わることによって、内閣、議会、外交、防衛の各制度がどのように変わったかをテーマに、講義を行う。

西洋経済史

033

Economic History

「大航海時代」を出発点にして、ヨーロッパとアメリカ大陸、アジアの経済的関係を概観した上で、産業革命

の実態と社会的影響力、産業構造の転換、消費型社会の誕生、スタンダード・テクノロジーの登場、世界恐慌とニューディール政策などを講義する。

人文地理学

034

Human Geography

本講義では、人文地理学の意義と役割、研究成果などについて説明しながら、自然と人間との関わりをさまざまな空間スケールで捉えて考察していく。随時、具体的な地域事例を取り上げて解説する。最後に、人文地理学の課題について考えさせる。

現代中国論

035

Contemporary Chinese Society

中国の名目国内総生産（GDP）は2010年に日本を抜いて世界第2位となった。2020年代には米国を抜いて第1位になるとの予測もあり、「21世紀は中国の時代」「世界の工場」といった将来性の高さが期待・注目されるが、その一方で、「バブルの崩壊」や「シャドーバンキング（影の銀行）」問題といった先行きへの懸念が取り沙汰されることも増えつつある。中国経済の高成長の背景には1970年代末以降の「改革・開放」政策による経済的な資本主義制度の導入があるが、政治的には社会主義が堅持され、共産党の一元独裁が維持されている。また、近年の日中関係は靖国神社問題や尖閣諸島問題などをめぐって摩擦が絶えず、1970年代初めの関係正常化以来で「最悪の状態」との評さえある。本講義では、このような中国内外の現状や諸問題について、様々な視点から検討してゆく。

教育学(1)

036

Education(1)

人間は次世代の育成をつねに考え、そのために努力してきた。それゆえ教育についての社会的な関心は大変強いのだが、教育それ自体について深く考える機会はない。この授業では、現代の教育問題を偏見や固定観念にとらわれず議論するための、教育に関する事実や概念の正確な認識の習得を目指す。講義の前半では、おもに歴史上の思想家たちによる教育論を検討していく。続いて海外の教育状況を考察し、後半ではこうした論を単なる知識の習得におわらせず、現代の教育問題にどのように適用できるかを議論していく。

教育学(2)

037

Education(2)

近現代日本の教育について歴史的に考察していく。その出発点として、いわゆる前近代の教育状況の検討からはじめ、基本的には時代順に現代教育の諸問題まで扱う

予定である。考察の対象は教育についての歴史的事実と思想だけでなく、教育と深く関わる言語や芸術、社会論なども含める。近現代史に関しては今でも見解の分かれる論点が多数ある。それゆえ講義では近現代の教育に関する具体的な知識だけでなく、現代の私たちが考え判断するための素材を提供すべく、可能な限り偏りなく多くの議論を紹介していく。

スポーツ・健康論

038

The theory of Health, Physical Fitness and Sports

現代社会における心身の健康に関する諸問題やスポーツをとりまく現状について考えるとともに、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な知識について解説する。

心理と生理

039

Psychology and Physiology

人間は社会的存在であるとともに自然的存在でもある。本講では、大脳生理学のおよび認知心理学的知見に基づく自然的存在としての人間の心と行動に関する基礎概念の解説と学習を行う。心理学の基礎となるヒトの生物学的共通要素を探る。

文化とパーソナリティ

040

Culture and Personality

人間は自然的存在であると同時に社会的存在である。社会の構成要素である個人について、その個人を個人たらしめているパーソナリティについて、理論、とらえ方(心理テスト)、変容、対人技法(カウンセリング)などを学ぶ。その上で人々の集団を俯瞰して文化的考察を行う。

学習と動機づけ

041

Learning and Motivation

心理学の基本領域のひとつである学習と動機づけを中心として自己および他者の行動、またその変容について理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

発達と教育

042

Development and Education

人間の発達と教育という心理学上の重要なテーマを中心として、遺伝、環境、自己認知の関連を理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

心理学概論

043

Basic Psychology

「心理学」がひとつの科学としてどのように発展してきたかを、最新の知見を通して学んでいく。また、いろいろな分野の知見を学ぶことで、心の不思議さや仕組みの理解・自己や他者への理解を深め、生涯にわたる自己変革と豊かな人間関係の育成といった、学習者としての資質向上をはかる。

心理学入門

044

Introduction to Psychology

ここでは心理学における二つの対立するパラダイムについて概説する。一つは、知性を「心」の内部に展開する表象活動に由来するもの、したがって人間が自身で作り出すものとみなす見方、もう一つは知性を人間と環境の相互作用が生み出すもの、人間と環境が相互的に構成するものとみなす見方である。前者は私たちには馴染みが深く、現代心理学の主流派の見方で、そこから認知科学なども派生してきた。他方、後者はアフォーダンス心理学あるいは生態心理学と呼ばれ、近代に特徴的な心身二元論を超越しており、今後、革新的理論として隣接領域にも大きな影響を与えると期待されている。ここでは二つの見方がどのように異なるのか、アフォーダンス理論の革新性とは何かについて学ぶ。

社会とジェンダー

045

Gender in Society

ジェンダーとは社会的に作られた性別、性差という意味である。「男は仕事、女は家事」といった性別役割分担など、この社会で観察される多くの「性差」の大部分は従来、自然なことだと考えられてきた。それに対し、ジェンダーという概念は、これらの性差は自然でも、必然でもなく、社会的に構築されたものだと思える視点を与える。本授業では、私たちを取り巻く社会の課題をジェンダーの視点で考察し、人々の生活と日本の政治・法律・社会制度と国際社会との関連などを理解する。

国際化と異文化理解

046

Globalization and Intercultural Understanding

国際化が進む現代社会では、様々な文化背景の人々と関わり協力することが必須である。私たちの日常生活や子どもを取り巻く環境においても、異文化と多文化共生について理解を深める必要性は高まっている。日本の文化や保育について再認識し、異文化間で生じる問題と対処方法について理解を深めることを目指す。自分と異なる文化を持つ他の民族に関心を寄せ、尊重し理解すること、さらに幼児期の発達上の問題をふまえて実際に関わる方法を探る。

日本文化の伝承

047

Transmission of Japanese Culture

日本文化の一つである茶道には書道・花道・香道や能・狂言といった芸能など様々な伝統文化が活かされている。

この講義においては、その茶道が現代でどのような役割をしているかということから、茶道の歴史を遡り近代・江戸・桃山と学び、茶道の真意、点前の意義、それらにおける着物、茶懐石料理、茶室、数寄屋建築といった衣・食・住の重要性を学ぶ。

さらに、季節に応じた茶道の行事である儀礼文化や、時代によって茶道という文化がどのように活かされてきたかなどを学習する。

演劇文化論

048

Theatre Arts

演劇という芸術をより深く豊かに鑑賞するための方法を知る。実際に劇場などで演劇鑑賞を通して、演劇芸術に触れる楽しさおもしろさを経験する。演劇についてDVD・ビデオ鑑賞を通して、さまざまな演劇について知る。これらのことを通して、演劇についての審美眼を養い、演劇の質について考える。特に、子どもを観客対象にした児童・青少年演劇鑑賞を通して、鑑賞教育の意義と目的について考える。

地域福祉論

049

Community Welfare

この講義は、古くて新しい概念である地域福祉の思想と実践について学ぶ科目である。地域福祉は社会福祉における1分野であるというより、高齢者、障害者、児童のすべてに横断的に関わる福祉思想である。様々な領域に共通する新しい福祉サービスの在り方の体系とシステムを学ぶことは、地域主権・地方分権が叫ばれ、地域重視の傾向が加速化する今日において、地域コミュニティの形成および都市計画の立案にとっても欠くことのできない実践体系である。

現代の疾病と食生活

050

Contemporary Disease and Diet

医学の進歩や生活水準の向上に伴い感染症は減少している。しかし、人々の生命を脅かす疾病からの開放は困難であり、国民すべてが健康で長生きできるという保障は得られない。さらに、加齢に伴う慢性疾患は増加し、がん、脳血管疾患、心臓病および糖尿病などが死因順位のトップを占める。この原因となる好ましくない生活習慣（食習慣、運動、休養、喫煙、不規則な生活、痩身志向など）は若年期に始まり、一人暮らしなどの生活の変化がこれを助長する。この授業では、健康増進と疾病予

防の観点から、食行動が心と身体の健康にとってなぜ大切であるかという人間側からの理解を基に、健康上の問題が発生したときに好ましくない要因を回避する方策、生活行動の変容に結びつけるための基礎知識を学ぶ。

論理学(1)

051

Logic(1)

論理学は推論（前提からある主張を結論として導き出すこと）について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが（前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが）、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である（この講義では、「タブローの方法」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる）。また、そうした学習を通じて論理というものの理解を深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

論理学(2)

052

Logic(2)

論理学は推論（前提からある主張を結論として導き出すこと）について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが（前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが）、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である（この講義では、「自然演繹」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる）。また、そうした学習を通じて論理というものについて考えを深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

生活とメディア

053

Media and Society

今日のインターネット社会では、メディアは、私たちの認識や思考の一部であり、身体の拡張でもある。本講義では、人工物を単なる道具ではなく、ひとの思考・認知プロセスの一部と捉える近年の認知心理学の観点にたち、現代社会における私たちとメディアのかかわりについて検討する。

公衆衛生学

054

Public Health

共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的・社会的健康の保持・増進を図るため、環境保健、疾病予防、保健・福祉、健康教育、健康管理、衛生行政、医療制度および社会保障などの基本的概念を学ぶ。また、プライマリ・ヘルス・ケアおよびヘルスプロモーションの概念を学び、さらに、集

団での各種疾病や中毒の予防、診断などについて、疫学、統計学などの技術を学び、科学的根拠に基づいたデータの評価方法を知り、応用として、健康教育・政策・管理が自ら立案できるよう学習する。具体的には、シラバスにそって、公衆衛生の観点に立って健康を意識し、視野を高めると同時に、自ら自発的に公衆衛生活動ができるように教育する。

公衆衛生学の学習は、保育所や幼稚園など集団生活を営む機関において、特に就学前の成長・発達の著しい園児の健康の保持、増進を図る上で、極めて重要であるばかりでなく、そこで働く保育・教育者の健康の保持・増進においても、最も基本的で重要である。

現代の物理

055

Contemporary Physics

20世紀に大きな発展を遂げた現代の物理は、科学の多くの分野と関連し、環境や情報を含む技術の重要な基礎となっている。社会は科学と技術の発展を基に作られているので、誰でも物理学を学ぶことが望ましい。この講義では、大事で面白いテーマを、できるだけわかりやすく取り上げる。

科学技術と社会

056

Science, Technology and Society

現代の社会は、科学と技術の発展をもとに作られていて、科学と技術は社会に不可欠の要素である。しかし、一方で、科学技術は我々の意識の中で縁遠くなりつつあり、地域・地球環境問題のような負の影響も無視できない。この講義では、科学と技術の歴史をふまえ、それらと社会とのかかわりを具体的に考察する。

情報処理演習(1)

057

Seminar on Information Technology(1)

情報化された現代社会におけるコンピュータやインターネット、情報の役割と意義について考え、必要な知識と技能、さらにはこれらを使いこなす知恵を養うことを目的とし、情報倫理について学ぶ。また、コンピュータソフトウェア「Microsoft Office」に内包される基本ソフトウェア「Microsoft Word」の操作方法を習得し、幼稚園や保育所などの職場環境で多用される文書作成のスキルアップを目指す。

情報機器を活用した今日的なビジュアルコミュニケーションを具現化することに主眼を置き、文字・画像を含めた様々な情報を訴求対象者にいかに美しくかつ機能的に伝達するかということをテーマに文書作成実習を行う。

情報処理演習(2)

058

Seminar on Information Technology(2)

「Microsoft Office」に内包される基本ソフトウェア「Microsoft Excel」「Microsoft PowerPoint」の操作方法を習得し、教育実務や保育実務において必須となる情報機器を活用した表計算やデータベース機能、グラフ作成、さらにはプレゼンテーション作成について習得する。

情報処理演習(3)

059

Seminar on Information Technology(3)

今日では幼稚園や保育所などの教育・保育環境において視覚化されたデジタル情報をコミュニケーションツールとして活用することが一般化し、デジタルフォトの管理、スライドショー、インターネットによる情報発信などに関するスキルが求められつつある。そういった時代背景を踏まえ、画像についての知識を習得し Photoshop Elements による簡単な写真加工の技術を学ぶ。次に、Dreamweaver にて簡単な Web ページを作成し学内にアップロード、Web サイトの仕組みを学ぶ。

また、コンピュータ機器を活用した視聴覚コンテンツ制作の基本を学びながら、情報処理演習(1)～(2)で学んだ Office アプリケーションについても、より使いこなせるよう実習する。

情報処理演習(4)

060

Seminar on Information Technology(4)

今日では幼稚園や保育所などの教育・保育環境において視覚化されたデジタル情報をコミュニケーションツールとして活用することが一般化し、スライドショー、動画作成などに関するスキルが求められつつある。

情報処理演習(1)～(3)で学んだ Office アプリケーションや、画像加工の知識を生かし、グループで問題を設定し解決し、プレゼンテーション作成・発表を行う。次に Windows ムービーメーカーを使用し、ムービー作成を行う。

PBL による産学協働演習

061

Industry-University Collaborative Practice on Project Based Learning

ボランティア(1)～(2)

062～063

Volunteer(1)～(2)

学生の自発的な意志により、個人が持っている能力あるいは労力をもって災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行われる無償の活動を経験するものである。得られた体験や知見をまとめた活動報告書等により評価し、単位認定を行う。

教養ゼミナール(1)～(2)

064～065

Cultural Seminar(1)～(2)

この科目は、名称・内容ともに各教員の積極的な提案により、双方向性を前提として少人数の学生を対象に開講する。学生はこの科目において、教員の熱意と蘊蓄を傾けたゼミ内容に魅せられるであろう。また、少人数で学年・学科を問わず履修できるので学生同士や教員との人間的な交流も深められるはずで、学生にとっても極めて有益であろう。

なお、教養ゼミナールは、4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として認められる。開講されるゼミは、年度によっても異なるので、時間割等で確認すること。

教養特別講義(1)(2)

066～067

Special Lecture of the Liberal Arts (1)(2)

外国語科目**Study Skills**

068

Study Skills

英文法や英語構文の理解を深め、後期科目の Reading&Writing(1)、2年次の Reading&Writing(2)、さらに TOEIC Preparation の学習につなげるための英語基礎能力の養成をおこなう。

Communication Skills(1)

069

Communication Skills(1)

In this course students will be exposed to large amount of English and will focus on improving their communication skills, specially both listening and speaking skills.

Communication Skills(2)

070

Communication Skills(2)

In this course students will be exposed to large amount of English and will focus on improving their communication skills, specially both listening and speaking skills.

Reading and Writing(1)

071

Reading and Writing(1)

The main aim of this course is to improve general English skills through reading & writing exercises.

Reading and Writing(2)

072

Reading and Writing(2)

英語を読み、書くことで、大学生としての思考力を鍛える科目です。よく練られた英語文章を読み、そこに論

理性や感性を感じ取ることで、みなさんが、知的好奇心を自分自身で育てていくための科目です。授業は、東京都市大学スタンダード(学年統一カリキュラム)のもとで、3キャンパスの学生たちが同じテキストを使用して行います。全クラスが、ある程度の同じ学習項目を共有しつつ、各教員が、それぞれの個性を生かした授業を行います。

TOEIC Preparation

073

TOEIC Preparation

学期末の TOEIC 試験による英語実力判定を受けるための準備クラスとして、半期間に集中して TOEIC 形式によるリーディング・リスニングを学ぶ。

英語でライティング&プレゼンテーション

074

Academic Writing and Presentation

Each week, students will prepare a presentation in English and Japanese to present to the class.

Each presentation will be followed by a question-and-answer session in English.

アカデミック・イングリッシュ・セミナー

075

Academic English Seminar

This course concentrates on improving all four skill areas with an emphasis on speaking and listening.

Advanced TOEIC

076

Advanced TOEIC

TOEIC での高得点獲得を主眼とした TOEIC 総合講座です。本講では、TOEIC600～700 点取得を目標に、リスニング・文法・読解力を養成すると共に、短時間で高得点に結びつく効果的な攻略法を学びます。

英語読解力養成

077

Advanced Reading

テキストの英文を読みながら、世界で起きている様々な問題について理解を深め、自分と異なることを理解する想像力が身につくよう、学習を進めます。英文中の単語・熟語・構文等を理解して読み進める中で、その正確さとスピードの両方を伸ばすように、集中して読解作業に取り組み、それを継続して英語力を高めましょう。

海外・特別選抜セミナー

078

English seminar for Overseas Study

英語文法トレーニング

079

English Grammar

英語運用能力を高めるためには英語基礎力の土台となる文法・構文の理解が必須である。
半期の集中学習で英語基礎力の強化を図る。

英語発音・聴解トレーニング

080

English listening comprehension

Students will improve their English proficiency while we work on all four skill areas with a focus on pronunciation.

キャリア・イングリッシュ

081

English for Career Preparation

国際的なビジネス場面で求められる英語コミュニケーション力を養うことを目的とする。交渉、接客、プレゼンテーション等における英語を教材として、語彙や表現を習得するとともに、スピーキング、リスニングの練習を行う。また、日本語と英語のコミュニケーション・スタイルの異なりを学んだうえで、国際場面で理解されやすい英語の話し方を練習する。

サバイバル・イングリッシュ

082

Survival English

英語の多読多聴を通し、自分の考えを書いたり話したりすることに自信が持てるようになることを目指す。具体的には、多読プロジェクトを行い、ライティングやプレゼンテーションの練習を行う。

ニュースを英語で読む

083

Reading News in English

ニュースには、新しい情報だけではなく、文化と過去と将来が詰まっています。Views on the News というテキストと生の新聞記事、YouTube や CNN.com の映像を通して、ニュース英語や Media Literacy を学んでいきましょう。

スポーツで学ぶ英語

084

Learning English through Sports

スポーツに関する新聞や雑誌、ネットの記事を読みながら、英文読解力を強化し、内容について受講者と教員が英語による質疑応答をとおしてコミュニケーション能力を養う。

映画で学ぶ英語

085

Learning English through Movies

最近のアメリカ映画とイギリス映画の中から講師が厳選した題材を利用してそのコミュニケーションで使

われた重要表現やキーワードを拾い上げて生のことばに触れる。ここに発音、リズム、会話のくせ、ボディランゲージ、文化の違いなど大きな発見があると思う。映画の中で初めて出会う語彙はたくさんあるはず。しかし、こんな簡単な表現なのかと気が付きことも多い。こうした体験を授業の中で重ねていながら、意外な会話フレーズ、スピードの速い口語体の英語になれるようにする。英語の新しい体験になるように工夫しながら、授業を進めていく。

文学で学ぶ英語

086

Learning English through Literature

イギリスの長編小説に触れながら、作家の生きた時代と社会、作品の歴史的・文化的背景を学びます。授業で扱う作品は、ブロンテ姉妹の『嵐が丘』と『ジェイン・エア』、ディケンズの『大いなる遺産』、ハーディの『ダーバヴィル家のテス』です。すべて有名なイギリスの文学作品です。これらの作品を読むことにより、イギリス小説の中で、女性作家がいかに重要な地位を占めているか、都会の持つ意味、小説の中で田園風景が果たす役割などが理解できます。物語の世界を体験するために映像や音声も使います。

音楽で学ぶ英語

087

Learning English through Music

洋楽を聴くひとが最近では減ってきたといわれていますが、この時間では講師の選んだポップスを聴いて歌のリズム、ビートを体感することを第1の目標にします。第二の目標は歌詞のなかの独特の語句を紹介してさまざまな感情表現に応用することをめざします。

Cultural Comparison

088

Cultural Comparison

Modern Society

089

Modern Society

科学技術英語

090

Sci-Tech English

科学技術に関する英文を読みながら、科学技術に関する論文や新聞を読むための語彙力、読解力の向上を目的とする。

外国語特別講義(1)

091

Learning English for Specific Purposes(1)

外国語特別講義 (2)	092
Learning English for Specific Purposes (2)	
ドイツ語 (1)	093
German (1)	
初学者を対象に、ドイツ語を理解・習得する上で基礎となる独文法をゼロから学んでいきます。	
ドイツ語 (2)	094
German (2)	
ドイツ語を習得するための基礎となる初級文法の解説および問題演習を反復して行う。	
フランス語 (1)	095
French (1)	
フランス語基礎会話	
フランス語 (2)	096
French (2)	
続・フランス語基礎会話	
スペイン語 (1)	097
Spanish (1)	
テキストの解説と会話表現を通じて、文法の基礎を教える。	
スペイン語 (2)	098
Spanish (2)	
テキストの解説と会話表現を通じて、文法の基礎を教える。	
イタリア語 (1)	099
Italian (1)	
イタリア語 (2)	100
Italian (2)	
中国語 (1)	101
Chinese (1)	
外国語の学習は、異文化理解、異文化コミュニケーションの基本的かつ不可欠な要件である。日本と中国の交流は今後も変わらず発展することが予想される。中国語 (1)、(2) では発音と文法を学び、基本的な日常会話ができることを目標とする。更に中国語の学習を通じ、より深い良識のある中国理解が身につくよう指導する。	
中国語 (2)	102
Chinese (2)	

外国語の学習は、異文化理解、異文化コミュニケーションの基本的かつ不可欠な要件である。日本と中国の交流は今後も変わらず発展することが予想される。中国語 (1)、(2) では発音と文法を学び、基本的な日常会話ができることを目標とする。更に中国語の学習を通じ、より深い良識のある中国理解が身につくよう指導する。

アラビア語 (1)	103
Arabic (1)	
アラビア語 (2)	104
Arabic (2)	

韓国語 (1)	105
Korean (1)	

韓国と日本は、言語、文化、風俗習慣等様々な面において、お互いに理解し合えるもっとも近い国同士である。最近、歴史問題、領土問題など課題も抱えているが、交流と対話を続けていけば必ず良い方向に進むと思う。

韓国語の授業では、こうした社会的状況をも踏まえ、韓国語の学習（文字、文法、単語）を基盤に、韓国の文化、歴史、韓国人の価値観等も考察していきたい。なお、韓国ドラマ・映画鑑賞の時間も設け、韓国語・韓国文化への理解を深めていく。

韓国語 (2)	106
Korean (2)	

韓国語の単語をたくさん覚えよう！そうすれば韓国に、K-POP に、ドラマに直接アクセスできるのです。

体育科目

人間と健康	107
Human Life and Health Care	

人間を身体的、精神的、社会的な側面から捉え、人間にとって「健康とは何か」を探究することが、QOL (Quality of Life) ; 「生活の質」を向上させるために重要である。様々な側面から健康とは何かを探究し、自己の生活スタイルをみつめなおし、自分の健康を的確に把握できる能力を養う。さらに、自己のダイエット行動や運動習慣を見直し、各ライフステージに応じた健康づくりのための、栄養・運動・休養を基礎とした適切な生活スタイルを確立する能力を養う。また、保育に携わる者は、将来、子どもを持つ親（特に母親）をサポートする立場になり、女性のライフサイクルについて学ぶことは必須であり、女性特有のライフサイクルと健康についても学ぶ。

健康と運動(1)

108

Health and Sport(1)

運動・スポーツの基礎的な技能，知識，態度を学ぶ。
身体能力や運動経験にかかわらず，積極的に各種スポーツに取り組むことによって，運動の楽しさや運動が心身の健康に及ぼす効果を再確認し，生涯スポーツを展望できる素養を身につける。

さらに様々なスポーツ・運動種目の体験を通して，チームワークやリーダーシップ等のコミュニケーション能力を養う。

なお，「健康と運動(1)」では主に球技種目を取り上げる。

健康と運動(2)

109

Health and Sport(2)

運動・スポーツの基礎的な技能，知識，態度を学ぶ。
自己の身体能力や運動経験にかかわらず，積極的に各種スポーツに取り組むことによって，運動の楽しさや運動が心身の健康に及ぼす様々な効果を再確認し，生涯のスポーツ生活を展望できる素養を身につけ，心身の健康の保持増進と基礎的体力の向上を図る。さらに様々なスポーツ・運動種目の体験を通して，チームワークやリーダーシップ等のコミュニケーション能力を養うと同時に指導的立場でのゲーム展開や基礎練習の進め方にも触れる。なお，「健康と運動(2)」ではマット運動や身体表現・ダンスなど，子どもの運動遊びの指導・援助に必要な基礎技能を修得する。

専門科目

保育原理

110

Principles of Early Childhood Care and Education

保育原理は保育士養成カリキュラムの告示科目で「保育の本質・目的に関する科目」の系列の中にある科目である。保育所では，0歳児から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象として，保育を行っている。長い子どもは6年間保育所生活を送ることになる。乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期であり，子どもの健全な心身の発育を図るためには正しい児童観と保育観をもち，子どもの発達を見通して発達段階にふさわしい関わり方が必要である。少子化の今日，保育に対するニーズは多様化し様々な保育形態が増えている。さらに在宅母子の育児支援も保育士の重要な仕事となっている。具体的には次の内容を学習する。

1. 保育の意義と本質
2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する
3. 保育の内容と方法について理解する

4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する

5. 保育の現状と課題について考察する

6. 諸外国の保育について考察する

教育原理

111

Principles of Education

教育の本質・目的・理論と実践の関係，教育の歴史について理解します。特に子どもを中心に据えた教育の言説や思想を取り上げながら，教育の基礎的知識を身に付け，教育現実に対する対応の仕方を考えます。子どもの発見がなされた教育の歴史から学ぶべき今日的課題についても正しい認識を持てるようにします。

児童家庭福祉(1)

112

Child and Family Welfare(1)

「児童の権利条約」が国連で採択された後も，児童の売買，児童貧困，家庭内暴力(DV，虐待)等，児童の権利侵害の事例は依然として後を断たない。「児童家庭福祉(1)」では，子どもは家庭や社会との相互関係の中で成長発達していくという基本的な考えのもとに，児童家庭福祉の歴史的変遷，現状と課題，動向と展望のほか，児童の権利や発達を保障するための児童福祉の仕組み，諸制度，援助の方法など，保育士として必要となる児童福祉に関する内容が体系的に学べるように進めていく。また，福祉施設での実習も念頭に置き，現場で役立つ知識の習得を目指す。

社会福祉

113

Social Welfare

少子高齢化の進行とともに，離婚，児童虐待，リストラ，高齢者介護，貧困など，多様な問題が増加し，福祉の重要性が社会的に浸透されてきている。「社会福祉」では，児童福祉，障害者福祉，高齢者福祉，生活保護等の各領域を概観しながら，福祉の意義，歴史的変遷，諸外国における福祉の動向，基本的な施策，相談業務，福祉サービス利用者の現状，社会福祉関連分野(保育，教育，療育，保健・医療等)の連携，社会福祉の動向と課題等について幅広く学び，理解を深めていく。テキストを用いた歴史的・理論的解説とともに，社会福祉活動の実践事例などを活用して授業を進める。

相談援助

114

Basic Counseling Skills

少子高齢化の進行とともに，離婚，児童虐待，リストラ，高齢者介護，貧困など，多様な問題が増加し，福祉の重要性が社会的に浸透されてきている。「社会福祉」では，児童福祉，障害者福祉，高齢者福祉，生活保護等の各領域を概観しながら，福祉の意義，歴史的変遷，諸

外国における福祉の動向，基本的な施策，相談業務，福祉サービス利用者の現状，社会福祉関連分野（保育，教育，療育，保健・医療等）の連携，社会福祉の動向と課題等について幅広く学び，理解を深めていく。テキストを用いた歴史的・理論的解説とともに，社会福祉活動の実践事例などを活用して授業を進める。

社会的養護(1) 115

Nursing and Care in Society(1)

親のいない要保護児童問題が中心であった時代から，現代は家庭の子育て機能の低下による要保護児童問題へと移行してきている。「社会的養護」では，児童福祉施設に自立支援という新たな機能や役割が求められているという動向を踏まえながら，現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題，児童養護の体系，歴史，政策，原理等，社会的養護に関する基本的事項について学ぶことにより，社会的養護の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について，理解することを目指す。

保育者論 116

Theories and Techniques for Kindergarten and Nursery School Teachers

1. 保育者の専門性への基本的理解と，自分がめざす保育者像をもてるようにする。
2. 授業方法としては，歴史的な名著，言葉から保育哲学を学び，現在の自分に置き換え意識化し学習するように講義をする。様々な問題を論議し，共有化し，問題解決のために何をしなければいけないか考察する。
3. これからの日本の保育に必要な保育思想を身につけると同時に新しい保育をデザインする力を養う。

発達心理学(1) 117

Developmental Psychology(1)

発達心理学は生涯にわたる発達をとらえる学問である。保育者は一人ひとりの子どもの発達を的確にとらえることが必要である。本授業では，人間の受精・誕生，死までの発達過程を理解することを目的とし，胎児期から老年期までの一生を「発達のみる」という視点を養う。また，履修者のほとんどが保育者をめざしていることから，乳幼児期の理解に時間を多くとっている。そして，実践につながる発達理解ができるよう視聴覚教材や事例なども取り入れながら子どもの発達を的確にとらえる力を養成すると同時に，発達にそった適切な援助・支援ができるよう指導する。さらに，学生自身のこれまでの発達を振り返り，将来，保育者として，あるいは，親としての成長の過程を見通すことができるよう援助していく。なお，保育士養成課程カリキュラムの改正

に伴い，「保育の心理学Ⅰ」の教科書を用い，保育実践とも深く関連づけながら理解できるよう展開していく。

教育心理学 118

Educational Psychology

教育心理学の基本的な事項を理解し，保育や教育への具体的な実践へとつなげていく。さらに，生涯発達の観点から幼児期から青年期までの発達に応じた保育と教育のあり方について学んでいく。特に，幼稚園・保育園期の子どもは生活や遊びを通してさまざまなことを学習し，それが生涯にわたる学習を支える基盤となる。乳幼児期の生活や遊びを通しての学習の重要性，およびその学習の過程について十分に理解を深める。また，最近教育・保育現場で課題となっている特別な支援を必要とする子どもについても具体的事例をもとに考えいく。

子どもの保健(1) 119

Child Health(1)

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能ならびに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題などについて理解する。
5. 保育における環境及び衛生管理ならびに安全の実施体制について理解する。
6. 施設などにおける子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

子どもの保健(2) 120

Child Health(2)

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能ならびに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題などについて理解する。
5. 保育における環境及び衛生管理ならびに安全の実施体制について理解する。
6. 施設などにおける子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

子どもの保健(3) 121

Child Health(3)

「子どもの保健(1)」「子どもの保健(2)」で学んだ知識を基礎に，実習を通して乳幼児の保育に必要な知識，技術，態度を習得する。保育と保健，看護の連携について知り，乳幼児の健康観察の方法，成長・発達の測定法

と評価、生理機能の観察と測定方法、養護技術、病気や事故に対する予防と対処方法の実際を学ぶ。子どもが突発的に事故災害や病気によって不測の事態に陥ったときに敏速に判断し、適切な救急処置が行えるようその基本原則と技術を習得する。さらに集団保育における保健計画および保健活動の実際について学ぶ。

子どもの食と栄養

122

Child Nutrition and Food

食と栄養に関する基礎知識およびその意義について学び、子どもの発育・発達、健康について理解を深める。一方、食育の基本を地域社会・食文化とのかかわりの中で理解する。さらに、家庭や児童福祉施設の現状と抱える課題、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。

家庭支援論

123

Family Support

現代社会では子どもを取り巻く環境が変化し、子どもの成長や自立の難しさが問われている。子育て支援は今や課題の一つである。本来、子どもは生活の基盤である家庭や家庭を取り巻く環境で育ち自立したが、現代では困難な状況である。その歴史的背景や社会状況を学び、個人や地域の問題だけではない、支援の必要性を理解する。そして家庭支援の意義、子育て家庭の状況を具体的にみる。これらをふまえて、子育て支援体制、家族への援助体制の様々な内容、子育て支援及び次世代育成支援にふれ、必要な家庭支援の方法を考える。

カリキュラム論

124

Curriculum

「幼稚園」、「保育所」、そして前期の2つを兼ね備えた「こども園」の保育・教育のカリキュラムについて、具体例を通して学ぶ。

保育内容総論

125

Early Childhood Care and Education

保育内容5領域「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」を総合的なものとしてとらえるとともに、保育の総合的指導を理解する。子どもの発達を育む「遊び」の理解に重点を置き、子どもにとっての「遊び」の意味と、「遊び」を支える保育者の役割や具体的な援助について考えることを通して、保育者としての実践力を獲得する。また遊びと生活を充実させる、保育の計画、実践、評価について学ぶ。

保育内容健康指導法

126

Early Childhood Care and Education: Health

乳幼児の健康は発達の基盤になるものであり、相互に関連しあった心と身体の健康の重要性を理解する。まず、各年齢段階における、知的・身体的・社会的な側面の総合的な発達について理解させるとともに、「健康な心と体を育て、自らの健康で安全な生活をつくり出す力を養う」という、領域「健康」のねらいを踏まえ、健康で安全な生活習慣を獲得するための指導や各年齢段階に応じた、自発的・主体的な全身を使った活動、例えば保育室で手軽に行える模倣遊びや身体表現活動から大型遊具を使用した運動遊びについて、保育実践例に基づいて実技も取り入れながら、適切な指導・援助の在り方を学ぶ。また、健康に関わる基本的な知識の理解を深める。

保育内容人間関係指導法

127

Early Childhood Care and Education: Human Relationships

幼稚園・保育所において保育の目標を達成するために、子どもの状況に応じて保育者が適切に行うべき基礎的な事項及び保育者が援助する事項を子どもの発達の側面の、人との関わりに関する領域を学ぶ。

幼稚園教育要領と保育所保育指針を対照しながら、領域「人間関係」についての理解を深める。乳幼児期から身近な人に興味や関心をもち様々な活動を通して人とかかわりながら生活している子どもたちが、保育現場ではどのような経験をし、どのように人間関係を学んでいくのか、保育者としてどのように援助していくのかについて視点を当て、ビデオ・スライド等の情報・映像機器の使用を通してディスカッションや分析をしながら内容を深め、各学年の人間関係の特徴やその指導方法について学ぶ。

保育内容環境指導法

128

Early Childhood Care and Education: Environment

まず、地球環境と人間の生活とのかかわりについて理解を図る。このことを基に、具体的な事例を適宜取り上げ、人、物、空間、時間の関係性によって生まれる状況の中で、子どもが環境とかかわり、様々な事柄に気づき、成長していく姿について学ぶ。最後に子どもと環境をつなぐ保育者（大人）の役割について学ぶ。

保育内容言葉指導法

129

Early Childhood Care and Education: Language

子どもの総合的発達における言葉の獲得に関する領域について、保育の目標を達成するために、子どもの状況に応じて保育者が適切に行うべき援助について検討する。0歳から就学前までの子どもの言葉の発達過程を的確にとらえ、子どもの生活・遊びと言葉の関わりについて考察する。言葉の育ちにおける集団の果たす役割や

言葉を育てる保育者の援助のあり方を、事例等を通して具体的に検討する。言葉を育てる環境構成、多様な言葉の獲得を促す絵本・紙芝居・人形劇などの児童文化財の活用について理解を深める。また、保育における言葉でのかかわりの持ちにくい子どもの援助についても理解を深める。

保育内容表現指導法 130

Early Childhood Care and Education: Expression

保育所・幼稚園において、保育の目標を達成するために、子どもの状況に応じて保育者が適切に行うべき基礎的な事項及び保育者が援助する事項について、子どもの発達を踏まえながら、特に感性と表現に関する領域について学ぶ。さまざまな表現活動を通して、表現者としての保育者の素養を身につける。そして、子どもが表現したいという意欲を育てるための援助と指導について考える。

乳児保育(1) 131

Infant Care and Education (1)

わが国の乳児保育の変遷を知り、現在の乳児保育の意義、保育所や乳児院の果たす役割を理解させる。新生児から3歳未満児の発達と保育を学び、乳児保育に携わる保育者として必要な理論、知識、技術の基本を具体的事例を通して理解させる。乳児保育の特徴を十分に理解させ、実践力を養うことを目標とする。

障害児保育 132

Early Childhood Care and Education
for Handicapped Children

障害には様々な種類があり、保育の場面においてはそれぞれの障害に応じた関わりや指導がますます必要となってきた。この科目では、障害全般について学習するだけでなく、実態把握の仕方やそれぞれの特性に応じた具体的な支援の方法などを具体的に学んでいく。また、障害児保育では個別的アプローチの必要性が高いことから、個別計画の作成方法についても触れていく。特に実践の場面を想定して、多くの保育現場において対応が困難となっている自閉症スペクトラムについては、詳細な検討を加える。

社会的養護内容 133

Practical Nursing and Care in Society

児童虐待の深刻化や家庭機能の弱体化などにより家族とともに生活することができない子どもたちに対して、社会全体が今後どのように支援していかなければならないかについて理解を深める。また、児童の権利擁護を意識しながら、子どもの心のとらえ方や保育士の倫理

についても深く考察していく。さらに福祉現場における実践力を培うため、虐待等の事例研究、ディスカッションによる課題整理、ロールプレイングによる共感性の獲得トレーニングなどを積極的に取り入れていく。

保育相談支援 134

Special Skills in Family Counseling

子育てを取り巻く環境の変化に伴い、子どもやその保護者が抱える課題は年々複雑化・多様化している。殊に教育・福祉現場において保育士の専門性を生かした保護者支援の取り組みがあらゆる場面で必要とされており、保育者にとっての重要なスキルのひとつとなっている。本授業では、保育相談支援の意義や基本的視点を学び、保護者支援の方法及び技術について理解を深めるとともに、ロールプレイング、模擬ケースワーク・グループワークなどを行い、保育相談支援におけるより確かな実践力を身に付けていく。

保育の表現技術（音楽表現）(1) 135

Expressions in Music(1)

保育において、保育者が子どもと共に歌ったり、踊ったりすることを楽しむ活動を展開するために必要となる音楽理論・楽器演奏技術、歌唱表現技術のうち最も基礎的なものを習得する。具体的には、五線譜、音部記号、音符、休符、拍子記号等の楽譜の規則を学び、楽譜が読めるようになること、ピアノの演奏技術を習得し簡単な子どもの歌の弾き歌いができるようになることを目標とする。

保育の表現技術（音楽表現）(2) 136

Expressions in Music(2)

保育者が子どもと共に歌ったり、踊ったりすることを楽しむ活動を展開するために必要となる音楽理論・楽器演奏技術、歌唱表現技術を高め、より音楽的な演奏として展開されるような技術を身につける。また、手遊びや楽器遊びを経験し習得する。このような活動を通して、保育者が子どもの表現のモデルであることを自覚し、自らの表現を高めることを目標とする。

保育の表現技術（造形表現）(1) 137

Expressions in Arts and Crafts(1)

保育の表現技術(1)では、保育の内容を理解し、実践で必要とされる制作に関する知識と技術を習得する。具体的には、モダンテクニック11種類によって描画表現と基礎技術を習得する。また、平面上の表現方法だけでなく立体表現として粘土と紙工作の基礎を習得する。このことにより触覚的な教育の重要性を理解し、素材の知識と道具の知識、これらを総合して操作する技術を習

得する。なお、保育の表現技術（１）は保育の表現技術（２）と連動している。

保育の表現技術（造形表現）(2) 138

Expressions in Arts and Crafts(2)

保育の表現技術（１）で習得した基礎技術を、保育の表現技術（２）で応用する。保育の内容を理解し、実践で必要とされる制作に関する知識と技術を習得した上で、これらの技術を基に幼児指導で役立つオリジナルな教材を制作し、教材研究の意義を考察するとともに、子どもの造形活動援助のあり方を理解する。具体的には、モダンテクニック 11 種類を自在に操作し応用したオリジナルうた絵本の制作によって、実践で使用できる教材を制作する。また、平面表現、立体表現の基礎と応用の成果として、保育環境を想定した意義のある壁面装飾をグループワークにより制作する。

なお、保育の表現技術（２）は保育の表現技術（１）と連動している。

保育の表現技術（身体表現）(1) 139

Expressions in Movement Activities(1)

身体全体を使ってあそぶ運動遊びは、体力や運動能力の発達を促すのみならず、運動欲求を満足させ、情緒を安定させる効果を期待できるなど、身体的、精神的、社会的発達に深く意義が認められ、子どもの発達に欠くことができないものである。乳幼児期の発達段階に応じた様々な運動遊びを自ら体験し、自発的に身体を動かして遊ぶ楽しさとその重要性を学ぶ。また、学生が将来保育者として、生き生きと動けるからだを獲得するため、様々な身体運動を体験する。子どもの心と身体、安全への配慮をし、子どもの遊びを豊かに展開するための保育者としての指導・援助や環境構成の創意・工夫を検討する。

保育の表現技術（身体表現）(2) 140

Expressions in Movement Activities(2)

保育の表現技術（身体表現）（１）で学修したことを踏まえ、（２）では特に身体表現あそびに焦点を当てていく。子どもの表現は、子ども自らの経験や周囲の環境とのかかわりから生まれ、様々な表現活動や遊びを通して展開していくことが重要であることから、その子どもの表現に係わる保育者として、学生自身の豊かな感性と創造性を磨くことを目指す。具体的には、さまざまな身体表現あそびを学生自ら体験し、他者の表現を認め、その体験を基に、模擬保育活動も行う。

保育の表現技術（言語表現）(1) 141

Epressions in Language(1)

子どもの発達と劇的遊び、絵本、紙芝居、劇遊び、おはなし、言葉遊び等、言語表現にかかわる児童文化財について学び、アクティビティを通して技術を習得する。子どもの言語表現活動を促し、子どもが自ら児童文化財に親しめるような環境と遊びについて考える。そのための基礎としてインプロビゼーションというシアター・ゲームを体験する。

保育の表現技術（言語表現）(2) 142

Epressions in Language(2)

子どもの「自由な活動としての遊び」と児童文化財を結びつけ、子どもとともに遊びを展開していくために、保育者に求められる言語を中心にした表現技術について体験を通して考える。特に、観客としての子どもたちに、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等を見せ、その活動から子どもたちの「自由な活動としての遊び」にどうつなげていくかについて考え、必要な技術を習得する。

保育実習(1)（保育所・施設） 143

Practical Training for Children in Nursery and Welfare Institution(1)

児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解させる。保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ばせる。学内において事前・事後指導を実施し、保育所で 10 日間の実習と入所型児童福祉施設等で 10 日間の実習を実施する。

保育実習指導(1)（保育所） 144

Practical Training in Nursery(1)

保育所実習が円滑に進められるよう、実習の意義や目的を理解し、必要な知識、技術だけでなく、実習生としてのふさわしい立ち居振る舞い、身だしなみも習得する。事前指導として、学習の目標を明確化し、実習に臨む心構え、倫理綱領、保育所保育指針などを理解するとともに、観察の方法、記録の方法、実践に必要な保育実技などを習得する。事後指導として、実習の総括および自己評価を行い、今後の学習目標や課題を明確化する。

保育実習指導(1)（施設） 145

Practical Training in Welfare Institutions(1)

施設実習が円滑に進められるよう、実習の意義や目的を理解し、必要な知識、技術だけでなく、実習生としてのふさわしい立ち居振る舞い、身だしなみも習得する。事前指導として、学習の目標を明確化し、実習に臨む心構え、実習を行う施設の概要、虐待や障がい等を有する特別な配慮を必要とする子どもたちについて理解するとともに、観察の方法、記録の方法、実践に必要な保育

実技などを習得する。事後指導として、実習の総括および自己評価を行い、今後の学習目標や課題を明確化する。

保育実習(2) (保育所) 146

Practical Training for Children in Nursery(2)

「保育実習(1)」の保育所における実習を修得済みの者で、さらに保育所での実習を希望する場合に実施する。保育所保育士としての実践的な指導技術や障害児保育、一時保育等、多様な保育ニーズについての具体的な実際も学ぶ。

保育実習指導(2) (保育所) 147

Practical Training in Nursery(2)

保育実習指導(1)を履修し学習を積み上げた学生が保育士資格取得の最終仕上げとして保育所に於いて行う実習科目であり、保育実習指導(3)との選択必修科目である。事前指導では、保育士としての実践的な指導技術や、障害児保育、一時保育等、多様な保育ニーズについての具体的な保育の実際も具体的な実践例から学ぶ。実習中は積極的に様々な保育形態に関わり体験する。事後指導については、実習日誌及び評価表による個別指導をする。

保育実習(3) (施設) 148

Practical Training for Children in Welfare Institution(3)

「保育実習(1)」の入所型児童福祉施設等における実習を履修済みの者で、さらに入所型児童福祉施設等での実習を希望する学生が対象。施設養護に携わる保育士の職務内容、役割を学んで実習に備える。施設のもつ養護の機能を具体的に学習する。

保育実習指導(3) (施設) 149

Practical Training in Welfare Institution(3)

保育実習指導(1)を履修し、さらに理論的学習を積み上げた学生が保育士資格取得の最終仕上げとして児童福祉施設・児童相談所・社会福祉施設に於いて行う実習科目であり、保育実習指導(2)との選択必修科目である。事前指導では、施設に勤務する保育士として実践的な養護・療育等の指導技術や、利用者に対しての権利擁護やアドボカシーのあり方について実践例から学ぶ。実習中は積極的に利用者に関わり、養護・療育等について体験する。実習指導については、実習日誌及び評価表による個別指導を行う。

保育・教職実践演習(幼稚園) 150

Seminar of Child Care and Education in Practice(Kindergarten)

まず、今までに学習した知識や技能を振り返り、整理する。次にそれを踏まえて、保育者の専門性に依拠する内容のテーマを設定し、少人数のグループ討論やロールプレイを行う。この中で、自分の意見を発表し、また教員・学生間による意見交換を行い、将来の保育者として学習した知識・技能等が、それぞれの学生に定着しているのか、獲得した知識や技能が実践場面で応用できるのかについて、再確認する。また現職保育者の授業を行い、実践の場での保育者の知識・技能の活用を具体的なイメージをもちながら考究する。授業後に、講義、グループ討論を通した学びを振りかえり、整理し、自己課題についてのレポートを作成する。個々の学生の気づきを大切に、レポートを積み重ねることで、将来の保育者として、専門性と資質能力を向上させるための課題を、自分自身で発見し努力できるようにする。最終的に、教職実践に関する理解をまとめ、自己課題について発表し、受講生間で共有することで、学びを深める。

授業は、担当者が分かれて、幼稚園、保育所、施設について各5回ずつ行う。現職教員・保育士による特別講義を6回実施する予定である。

社会的養護(2) 151

Nursing and Care in Society(2)

主に施設における養護問題やその時々的重要な課題・問題にクローズアップし、その背景や原因、児童の状況や、親子の病理、治療の対応、予防的対応などを適切に考えられる学習を行う。施設養護の基本原則の理解や児童虐待防止法などを軸に社会的養護のあり方を学ぶ。児童虐待、施設における障がい児に対する問題、同じく施設における就職・進学等の自立に対する問題他を把握し、施設保育士としての援助方法や対処方法等について考察を行う。

児童家庭福祉(2) 152

Child and Family Welfare(2)

児童家庭福祉(1)で学習した基本的事項を踏まえ、「児童家庭福祉(2)」では、さらに専門職として深い学びを行う。児童福祉分野としての保育所の制度や仕組み、さまざまなサービスの意味と課題を理解する。保育士資格に示される保育所以外の施設での役割や今後の課題についても理解を深める。その上で専門職とは何かをしっかりと考え、そのあり方を考える力を養成する。さらに、わが国の今日的課題、例えば少子化、児童虐待、児童をめぐる犯罪、児童が引き起こす問題行動等について、社会的背景や原因、対策など具体的に考察を行う。また、それらの解決に際し、地域でのさまざまなサポートについて、主任児童委員や子育て支援センター、集いの広場などの試みを学生自身が居住する地域の現状に

関心を持ち調べて話し合う機会も持つ。

発達心理学 (2)

153

Developmental Psychology (2)

発達心理学 (1) をふまえて、主に乳児期、幼児期にわたる発達について理解を深める。保育者の子どもに対する理解のあり方は、子どもの発達に大きな影響を与えるものである。したがって、本授業を通して、子どもの発達を正しくとらえ、子どもの心がどのような状態にあるのかを理解し、保育者として適切な援助ができる力を養成していく。また、乳幼児の日常生活の中から得られる具体的なエピソードを、発達心理学的に分析する練習を通して、子どもを観察する視点を養っていく。さらに、乳幼児期の経験の重要性を知り、保育者と子どもとの関係、保護者と子どもとの関係についても探究していく。

臨床心理学

154

Clinical Psychology

保育者に必要な臨床心理学の知識を学ぶとともに、子どもの発達を臨床心理学的にとらえるとはどういうことなのかについて考えていく。また、子どもの発達を客観的に把握する手段としての発達検査、スクリーニングテストについての理解を深める。その中で、発達全体をスクリーニングする質問紙検査、子どもの描画から発達を把握する検査、子どもの社会的認知発達をスクリーニングする検査などを紹介する予定である。さらに、子どもに関わる仕事に携わる者は、自己理解を深め、自己受容をしておくことが大切である。「自分を知り、他者を知る」ことを目的として、心理テストなどを用いて自己理解を深める。

乳児保育 (2)

155

Infant Care and Education (2)

「乳児保育 (1)」で学んだことをさらに深める。乳児院や保育所の 3 歳未満児の発達と保育について具体的な保育実践の事例を通して理解を深め、より高い専門的技術を習得する。また、急速に発展している「赤ちゃん研究」の最新情報を知り、乳児の理解を深める。今後の乳児保育について、保育所等の保育施設が家庭と連携しながら、乳児と保護者が豊かに育つための方法を探り、広い視野から乳児の最善の利益を図ることについて考える。

保育の表現技術 (音楽表現) (3)

156

Expressions in Music (3)

保育の表現技術 (音楽表現) (2) で学んだ基礎をもとに、アンサンブルの楽しみを経験し、演奏をより深め、子どもの歌の弾き歌い技術の向上をめざす。具体的には、

楽典知識を復習することによって確実なものとし、ピアノ連弾を行うことによって他者と共同して音楽を創り出す楽しみと難しさを経験する。また、より音楽的な子どもの歌の弾き歌いができるようにする。

保育の表現技術 (音楽表現) (4)

157

Expressions in Music (4)

保育の表現技術 (音楽表現) (3) で学んだ基礎をもとに、技術を向上させることによって演奏をより深め、また子どもの歌の旋律に簡単な和音伴奏を創作することができるようになるための基本的な知識を習得する。具体的には、和音進行の基礎理論について学び、旋律に適した和音伴奏を創作する練習を行う。また、弾き歌いができる子どもの歌のレパートリーを増やす。

保育の表現技術 (造形表現) (3)

158

Expressions in Arts and Crafts (3)

「保育の表現技術 (造形表現) (1) (2)」で習得した基礎技能を応用し、質の高い保育表現技術を習得する。身近にある材料から表現の可能性を探り、保育環境を意識した立案、計画、制作までを行なえる能力を習得する。具体的には、身近にある素材を用いながら張り子を制作し、これを基に全身を装飾する。また、屋外などの環境を利用した空間装飾をグループワークにより計画、立案、制作する。

児童文化 (1)

159

Children's Culture (1)

子どもを取り巻く様々な文化について学ぶ。児童文化史を概観することによって基礎的な知識を習得するとともに、子育て習俗等の伝承文化や、さまざまな児童文化財、現代の子どもの生活文化や遊び等について検討し、考察を深める。

児童文化 (2)

160

Children's Culture (2)

保育の現場でよく用いられているお話、絵本、紙芝居、人形劇、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアターなどを中心として児童文化財との出会いやかかわりがどのような意味をもつのか、ということについて探求していく。

子どもと昔話

161

Folktales

家庭や保育現場で、子どもに語られてきた昔話には私たち現代人へのどのようなメッセージが含まれるのか。絵本や紙芝居に取り上げられた身近な昔話を例に、昔話の変遷とメッセージを理解した上で、保育者が子どもに

昔話を伝える際の留意事項や子どもに昔話を伝えることの重要性を学ぶ。

子どもにとって昔話がどのような意味を持つのか深く理解し、最終的に受講生自身が保育者として子どもと昔話を繋ぐ役割を担当できる展望が持てるよう学びを深めていく。

地域と伝承文化 162

Traditional Culture

長い歴史の中で培われてきた日本の伝統文化や日本の生活様式を知るとともに、失ったもの、失われようとしているものも多く、そのことが現代のさまざまな問題にもつながっていることを知る。

フィールドワーク研究 163

Field Work

保育園などの保育現場では、子どもは常に活動していて、保育者はその子どもの理解を要求される。

保育者として常に動いている子どもたちを理解するための重要な観察方法を学習する。

手話 164

Sign Language

手話言語の基礎、及び手話コミュニケーションについて学ぶ。ろう児や難聴児とのコミュニケーションに手話を活用できることを目指すとともに、ろう者やろう文化に対する認識を深める。手話の文法を知ること、ろう者の「ことば」への理解・認識を確かなものにする。手話を習得することで自らの表現を豊かにするとともに、コミュニケーションにおける身体的役割についても考察する。

比較保育学 165

Comparative Studies of Early Childhood Education and Care

日本における保育・幼児教育の理念および歴史の理解を基本として、日本の保育の構造について理解を深める。また、諸外国にはそれぞれの国の歴史・文化・経済等の事情で、色々な保育実践が行われていることを理解する。特に、保育制度、保育実践、子育て支援として先駆的役割を担っているカナダ、ニュージーランド、北欧諸国の事例を検討する。また保育においても日本との関係が緊密であるアジアの保育動向についても理解を深める。そして日本と諸外国の保育・保育制度等との比較検討を進めながら、日本の保育の特質を理解し、国際化が進む中で豊かな保育環境を生み出し、保育の将来像を展望すべく広い視野から考察する力を育てる。

児童館論 166

Theory of Children's Centers

児童館は地域における児童健全育成の中心的な施設として様々な機能を有している。児童館は地域の子育て支援のための活動や、青少年の居場所づくり、そして小学生に対する放課後児童クラブの高いニーズがある。本講義では、児童健全育成活動の理解と共に、児童館の機能を学び、その問題点と新しい方向性を学び、児童館や児童クラブに勤務する保育者の実践的な指導技術や役割、次世代の機能について考察する。

幼児の生活と遊び 167

Children's Life and Play

幼児は生活を通して、また遊びを通じて発達していくことを理解させる。その手がかりに「伝承遊び」を取り上げる。現代まで子どもが遊び続けてきた「伝承遊び」に生活と遊びの接点があることを知る。一つ一つの「伝承遊び」の起源や遊び方をもとに分析するとともに「伝承遊び」が減少してきた原因を探る。また子どもの保育に携わる保育者として「伝承遊び」の実践者とともに伝承者としての自覚を促す。

児童文学 168

Studies in Children's Literature

エポックとなった絵本・伝承文学等の作品に触れることを通し、児童文学の社会的役割の変遷を理解する。児童文学の様々なジャンルを学び、現代において子どもと図書を結ぶ役割を担う上での基礎的知識を養う。さらに読書への導入や書写等、子どもの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」への具体的な指導方法の実践と事例検討を行うことを通じて、教諭・保育者として必要とされる知識や技能を身につける。

子どもと数 169

Math Activities for Children

「かず」の世界に改めて触れる機会をとおして、その不思議さや美しさを感じる感覚を自分の中で発見する。同時に、我々を取り巻く環境の中に数や図形にかかわる具体的な世界のあることに気づく。そして、子どもと数の関係も、環境とかかわる中での体験をとおして感じ取られていくことを理解する。

教育学概論 170

Introduction to Educational Thought

教育学を人間の成長・発達に関するすべての事象・現象を対象とする学問として理解するために、人間理解をはじめ、人間形成を促し支援する活動およびその活動を担う場としての家庭・学校・社会の役割と関わり方につ

いて多角的視点から考察し、公正な教育観を身に付けます。

幼児の造形表現指導法

171

Teaching Methods: Art Expression

人間と表現の歴史に触れながら、表現の重要性を理解した上で幼児の実態に応じた指導計画を行い、主体的に造形表現を促すことのできる指導力を習得する。具体的には、幼児の表現活動を映像で視聴しながら発達段階や指導の工夫について理解する。また、自らも表現する楽しさを味わいながら制作し、身近な材料から造形表現を発想する能力を培う。これらのこと学び、各自指導計画案（制作）を立案し、相互評価を行うことで実践力に結びつける。

幼児の身体表現指導法

172

Teaching Methods : Physical Expression

言葉が未発達な乳幼児期には、身体表現は重要なコミュニケーション手段であることを理解し、身体による表出や表現に関する基本的知識を習得し、子どもの身体表現を読み取り、共感できる能力を養う。また、実技を通して、「動けるからだ」を獲得し、想像力や創造力といった、自身の豊かな感性と身体表現力を養う。さらに実践的授業により、子どもの自発的な身体表現の可能性を開き、身体表現力を豊かにするための適切な指導・援助について学ぶ。また、狭い保育室でも全身を使った運動遊びを展開できる、模倣遊びや身体表現遊びの意義は、「表現」領域に留まらず「健康」にもつながることを理解し、それらに配慮した指導・援助についても学ぶ。

幼児の音楽表現指導法

173

Teaching Methods: Music Expression

保育者として必要な幼児の音楽教育理念、指導法、教材研究等について学ぶ。子どもたちが自発的に仲間と共に音楽的な遊びを展開することは困難になりつつある現代社会において、幼児の感性を養い、創造性を育み、多様な音楽的表現を引き出させるには、「子ども文化」としての音楽表現が、子どもと大人とがかかわりあう「保育文化」の中でどのように生起し、展開するかということについて構造的に理解し、「子ども（の音楽）文化」の生成を促すために、保育者が如何に関わりうるか、ということについて考察を深めることが必要である。「人間文化」としての音楽文化の特質を把握した上で、手遊び等の遊び歌や童謡、その他の教材（文化財）についての教材解釈論、それをもとにした子どもの表現活動の読み取り方、楽器や歌等の様々な指導法についての知識と問題点の考察を行う。

幼児教育方法論

174

Kindergarten Education Methodology

幼稚園教育における環境の重視、また遊び中心の保育、そして生活を通しての保育という、幼稚園が目標とする基本を理解する。子どもたちにとって生活の中で最も良い時間帯を過ごす園は、安全で楽しい場である必要がある。子どもの主体性を尊重し自発活動を引き起こしていくには、子どもと深くかかわる保育者の保育観や保育環境構成によるところは大きい。園で遊ぶ子どもの姿をビデオ・スライド等の情報・映像機器の使用を通して、幼稚園教育の基本の理解を深めるとともに、具体的な子どもの姿を分析し幼児期の発達と遊びの重要性や保育の具体的な展開について保育者の望ましい教育方法を学ぶ。また、教育方法論を知るとともに、情報機器及び教材の活用や保育記録について実践を通して学んでいく。

幼児理解の理論と方法

175

Theory and Methods for Understanding Children

乳幼児期・児童期の子どもの心理とその発達、集団の中での関係性などを理解するための実践的な方法論を習得しながら、子どもについての理解を深める。同時に、将来、保育者あるいは親として子どもの気持ちや関係性等の適切な読み取り・判断・援助ができる知識と実践力が身につくよう指導する。本授業では、幼児理解の理論を学ぶとともに、とくに、保育者に大切な子どもの心理や発達を的確にとらえる目を養うことに通じる観察法を中心に、観察演習を取り入れながら、観察方法、記録のとり方、観察と記録からの考察、研究における倫理、聞く技法等について学ぶ。また、実習における参与観察をふまえ、フィールドでの参与の度合、観察記録時の留意点等についてもふれる。インタビュー調査および質問紙調査についても理解を深め、技法が習得できるようにする。

教育相談

176

School Counseling

教育相談を行う上で必要な発達理論、子どもの理解の方法及び保護者への関わり方について、実践や事例研究を通して具体的に学ぶ。近年、教育・保育の現場において、「気になる子ども」に関する相談が多くなってきている。対応が上手く行われない場合、保護者も現場の担当者も子ども自身も困惑し、その子どもの発達に影響をおよぼすばかりでなく他の子ども達にも混乱が広がっている場合も少なくない。この現状を踏まえて、子どもや保護者への支援としての教育相談活動の意味について考え、子どもの状態像を把握する方法や、子どもや保護者への関わり方、教育相談を行う者の義務と責任、関係諸機関への連携について学ぶ。幼児期の教育相談だけ

でなく、生涯にわたって支援する視点とは何かについても考えていきたい。

幼稚園教育実習(1) 177

Practical Training in Kindergarten(1)

幼稚園教諭 1 種免許状取得に際し 2 年次の終わりに行う幼稚園教育実習である。実習に際し、まず、実習園の歴史、教育方針、保育内容、幼稚園内の環境構成、幼稚園周辺の環境の実際と、その意味するところを学ぶことを目的とする。更に、そのことを通して幼稚園教育が幼児期の子どもの成長に果たす役割を理解する。また、幼稚園教諭の仕事内容、役割、を理解し、学生自身の今後の課題発見の手がかりとする。

幼稚園教育実習指導(1) 178

Guidance for Practical Training in Kindergarten(1)

幼稚園教育の現場で実習することを想定し、①幼稚園教諭の仕事内容とその意味、②子どもたちの姿を理解するための観察方法、③子どもたちとのかかわりの方法を学ぶ。その学びを基に、実習日誌に的確に記述する方法とその意味を理解する。さらに、指導計画の実際について事例から学び、実習を想定して自ら指導計画を作成する。以上のことを通して幼稚園教諭の仕事、幼稚園教育の役割を理解する。

幼稚園教育実習(2) 179

Practical Training in Kindergarten(2)

この実習では、3 年次後期までの様々な学びの体験を踏まえ、改めて幼稚園教育の方法と目的について、実習を通して具体的に確認することになる。実習期間中には、習得した教育・保育の技術をもとに半日、あるいは 1 日、クラス担任として幼児を指導する体験をし、幼稚園教諭として不可欠の課題(教材解釈、子ども理解の方法、クラス運営の方法など)を学ぶ。

幼稚園教育実習指導(2) 180

Guidance for Practical Training in Kindergarten(2)

幼稚園教育実習(2)に向け、実習を希望する園の開拓(所定の授業期間に先行して実施)を含め、学生自らが積極的に実習に向けて準備する姿勢を育てる。実習園の教育方針、指導計画の立案、教材解釈と準備など、基本的な課題についての理解を図り、その実現を支援する。実習終了後は、園からの評価表、実習日誌などをもとに、幼稚園教育実習全体の振り返りを行う。

キャリアデザイン入門

(児童・青年期の心理とキャリア発達)

181

Introduction to Career Design

入門として、主に大学生が位置する青年期を中心に心身の発達の特徴を理解し、青年心理学および生涯発達の視点から進路・職業を含めたキャリアデザインについて考えていく。それには、まず、自己をよく理解しておくことが大切である。とくに、青年期は、大人社会への移行期にあたり、多くの問題にぶつかり、苦悩することが多い。ともすると、自己評価が低くなり、自信を喪失することもある。さまざまなテーマを取り上げながら、自分自身を省察し、ディスカッション、発表、ポートフォリオ等を通して、青年期の心理を理解することにより、自己理解、将来設計、および、親や大人を理解する一助となればと考える。また、自己成長の様相を知り、いろいろな問題や悩みについても一緒に考えていく。

キャリアデザイン(1)

182

Career Design(1)

キャリアデザイン入門を踏まえ、(1)では、大学で「学ぶ」として社会で「働く」としての意義と関係性を理解し、自己について理解を深め、社会で働き生きていくために必要な力の養成を目指す。理論と実践を両立させるため、キャリア理論や社会が求める力を学び、自分自身のキャリアをデザインし、自主性・主体性を持ち、問題解決能力を養成し、社会の様々な分野で活躍できる人材育成を目指す。キャリア支援プログラムと連動し体系的に学びを深める。

キャリアデザイン(2)

183

Career Design(2)

キャリアデザイン入門および(1)を踏まえ、(2)では、教育・福祉関係、企業、雇用情勢の把握と、その中で自分の役割についての理解を深め、そこから進路選択につながる個々に応じたキャリア形成プランニングを、自ら組み立て実現する力を学ぶ。キャリア支援プログラムと連動しながら、キャリア・アプローチの手法や実践的な知識を得て、様々な業界で先駆的役割を果たし、精神的にも経済的にも自立した豊かな人生を切り拓いていく能力を養成する。

インターンシップ(1)～(2)

184～185

Internship(1)～(2)

在学中に就業体験をすることで、自分の将来を見つめ、自己の適性を知り、将来の進路計画に役立てる有意義な機会とする。もとより大学における「講義・演習」、「実習及び実技」は、実社会で役立つことを想定して計画しているが、本科目はより実践的・具体的に実際の産業界

における価値観や要求されることを獲得する機会とする。

幼児の生活と自然環境

186

Children's Life and Natural Environment

子どもは、幼い頃から様々な五感を駆使して自然と関わり、様々な発見をし、感動し、そのことを色々な方法で表現をします。将来乳幼児教育・保育に携わる者として、まず学生自身が自然と関わり、様々な発見をし、色々な方法で発見したことを表現する方法を身につけることが、この授業の目的です。授業では、人が子どものころから持っているはずの「センス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見張る感性）」に目を向け、それぞれの感性に働きかける課題に取り組みます

海外研修

187

Study Abroad Program

オーストラリアの保育施設を訪問し、英会話の授業と幼児教育・保育に関する講義を受講してその国の幼児教育・保育について学ぶ。

その国の歴史、文化に触れるとともに、ホームステイや施設見学などを通して、海外の幼児教育・保育の実態に触れる。また実際に現地の言葉を使ってコミュニケーションする機会を得る。さまざまな人々と触れ合うことを通して滞在する町の生活を知るため、自らの生活のあり方を振り返る機会となる外国でのホームステイを体験するため、大学へ通って英語で授業を受ける生活を送る準備をするため、幼児教育・保育施設での実習のために、英会話と滞在国に関する知識とホームステイ先での注意点等の準備講座を開設して、現地での研修のための準備を整える。

子育て支援演習

188

Seminar on Child Rearing and Care Support

「学内子育て支援センターぴっぴ」においての実習を行う科目である。地域の子育て支援を実践的に学ぶ。保育者の仕事は、子どもの保育だけではなく、保護者の支援が重要である。「ぴっぴ」では、実際の親子を観察したり、親と話したり、親子とかわることで実際の親子の理解を深める。2年生から4年生にかけて課題を実行していくことで、力のある地域の子育て支援者の養成を目的とする。

食農文化と子育て(1)

189

Culture of Food and Farming for Child Care(1)

食農文化は、幼少期からの心の教育として重要であり、土づくりから収穫・利用まで、いのちを育み、利用する体験を通じて、共生、循環、多様性を実感することで、

これを生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培うことができる。本授業では、食農文化に関わる基本を実践的に展開することで、知識と理解を深めていく。また、自らの積極的な労働を通し、作物を栽培する楽しさ、収穫の喜び、人間と自然との調和、自己の責任と他者への協力の姿勢の大切さを習得させる。

食農文化と子育て(2)

190

Culture of Food and Farming for Child Care(2)

食農文化は、幼少期からの心の教育として重要であり、土づくりから収穫・利用まで、いのちを育み、利用する体験を通じて、共生、循環、多様性を実感することで、これを生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培うことができる。本授業では、食生活の構造変化や乳幼児期の食環境や食育の歴史を学び、具体的な食育活動の実際を現場の栄養士から学び知識と理解を深めていく。また、自らの積極的な労働を通し、作物を栽培する楽しさ、収穫の喜び、人間と自然との調和、自己の責任と他者への協力の姿勢の大切さを習得させる。

人間科学概論

191

Introduction to human science

人間の生涯を健康という観点から科学する。その中でもとくに、学生の現在の健康問題に対するセルフケアという観点と、学生の健康問題全般に対する基本的理解を高め、これからの人生にも役立たせるという観点から学習する。人間の「健康」と「生活の質（QOL）」、生命のしくみとその機能、健康の概念、健康と生活習慣、健康を支える医療制度、こころの問題、人間関係、生命倫理等、人間科学の基本的知識を自然科学、社会科学、人文科学等、学際的にアプローチし、「知」の創造等に貢献できる人材の育成を目指す。

児童学入門

192

Introduction to Child Studies

児童学で目標とするところを、児童学科の専門科目を担当する専任教員全員がそれぞれの専門分野の立場から明らかにしていくものである。児童学が、児童の福祉の視点からの児童福祉、児童の発達・心理の視点からの児童発達、児童の健康・保健の視点からの児童保健、児童（乳幼児を含む）の教育・保育の視点からの児童教育・保育、児童を取り巻くさまざまな文化の視点からの児童文化という5つの柱から構成されている学問領域であることの基礎を伝えるものである。その過程で、履修者の一人ひとりが児童学とは何かということ理解し、児童学科で学ぶことの意義を発見する。児童学の領域の広が

りを理解し、児童理解を深めるものである。

基礎ゼミ

193

Basic Seminar

大学では自分の考えを文章にまとめたり、自分の意見を述べたりすることはすべての授業に必要な基本である。そこで、まだ入学してまもない1年生が文献や資料の探し方、インターネットなどを通じた情報の集め方、あるいは文章のまとめ方、発表の仕方などを学び、大学生としての基礎を身に付けることが本授業の目的である。研究倫理についてもふれる。さらに、身近な生活の中からテーマを選び出し具体的にレポートにまとめる活動を通して、主体的に学ぶ姿勢を養うことも併せて課題とする。

特別研究

194

Advanced Seminar

研究を行うための基盤となることを学ぶ。自ら興味と関心のあるテーマを模索し、テーマに関係のある指導教員の指導と助言を得ながら、文献研究、フィールド調査、実験等の研究方法や研究倫理について学ぶ。まず、資料の集め方を学び、実際に図書館やインターネットを使って、テーマにかかわる文献をできるだけたくさん集める。集めた文献を幅広く読み、自分の興味と関心がどこにあるかを探索する。テーマが設定されたら、集めた文献の中で先行研究にあたる文献を選択し、さらに最新の文献を探し、読みこみ、まとめ、研究室ごとにプレゼンテーションを実施する。

卒業研究

195

Graduation Studies

学生生活における学問研究の総まとめとして、自ら興味と関心のあるテーマを決め、テーマに関係のある指導教員の指導と助言を得ながら、文献研究、フィールド調査、実験などを行い、その成果を論文としてまとめ、提出する。「特別研究」の先行研究を基盤にして、テーマを設定し、研究目的を明らかにし、研究方法を決定する。この段階で卒業論文の中間発表会を行い、学生同士で議論する。研究方法に従って、研究計画を立て、調査、実験、製作等を実施する。その成果を論文としてまとめてみる。それをもとにして、指導を受けながら、校正を繰り返し論文の質を高めていく。最終的に総まとめとして、卒業論文発表会を実施し、卒業論文抄録集を作成する。

